

障がい児の保護者と支援者のための

就労支援ガイド

～障がい児の「将来働きたい」を応援する～

信頼

夢

自立
マナー
相談
社会ルール
居場所
余暇
喜び
感謝
資格
買い物
就労
自信
達成感
工夫

自尊心
点字
あいさつ
返事
お願いする力
自動車免許
生活リズム
金銭管理
時間
移動
パソコン
責任感
感謝
資格
買い物
コミュニケーション
社会ルール
謙虚
就労
納税
グループホーム
生活習慣
登下校
路線バス
報告
危険回避
集中力
汗をかく
家族
同じ
余暇
旅行
達成感
かながる
小さな変化
ありがとう
蒸の支え
信じる
役割

沖縄県

将来の社会参加や就労へ向けて！

障がいのあるお子様の将来に関して、どのように考えていらっしゃいますか？

「就職なんてまだまだ先のことで、毎日の対応で精一杯」という方がほとんどだと思います。しかし、もし、お子様が「将来働きたい」と言ってきたら、やはり応援するのではないのでしょうか。

実際、就職したいと希望する障がい者が増加していて、就職件数も伸びています。また、積極的に実習も雇用も受け入れている企業も増えています。さらに、就労支援機関も増加していて、働きたい障がい者にとって環境が整いつつあります。しかし、社会生活のための準備をしていなかった場合、いきなり就職活動を始めても、様々な問題にぶつかることが多いのも現状です。

このガイドブックは、保護者や身近な支援者へ、社会参加への準備として日常生活で取り組むためのヒントを提供するものです。

目次

1．ライフプランと子供の時期からの取り組み.....	1
働く準備は早すぎることはない今からでも遅くない.....	2
2．日常生活での取り組み～家庭生活と学校生活～.....	7
保護者アンケート結果より.....	8
本人の声に耳をすまそう.....	10
個別移行支援計画.....	12
教える技術・伝える技術（ジョブコーチの手法から）.....	16
チェックリストと課題分析・取り組み事例.....	19
3．将来の道しるべ～職業生活から～.....	31
企業アンケート結果より.....	32
職業生活の楽しみ（余暇活動など）.....	34
就職するための支援機関.....	36
職業訓練.....	38
就労移行支援事業.....	40
職業生活の問題（善悪の区別、金銭問題）.....	42
グループホームでの生活.....	44
企業の雇用事例.....	46
4．資料	
沖縄県の雇用状況.....	52
市町村相談支援事業所一覧.....	53

1 . ライフプランと子供の 時期からの取り組み

子供の一生を考えたとき、どの時期にどのようなことが起こるでしょうか。

将来、学校を卒業する時期は確実にやってきます。

特に、就職を希望する場合、卒業後は「就労」や「職業訓練」のライフステージに突入します。

ここでは、将来のための準備について述べます。

働く準備は早すぎることはない 今からでも遅くない

北部障害者就業・生活支援センター 所長 崎 濱 秀 政

社会性を育てる

少なからず人は、「働くこと」や「社会活動」を通して自らの生活基盤を築き、地域社会の一員として人生の質を高めていきます。ここでは障がいのある子ども自身の働く意欲を育てるため、日常生活に視点を置いて考えてみました。

「働く準備はいつからすれば？」という保護者からの問いに、日常生活の中で子ども自身の役割をつくるのが大切だと答えています。家庭生活における役割こそが、社会性を育てる第一歩と考えています。学校生活でも係り当番を担当し、役割を果たすことで責任感やルールを守る意識を育てるのと同様の考え方です。

人は年齢に関係なく「役割のある生活」こそが、家庭や学校、職場への所属の意識を育み、働く意識と意欲の芽生えも育っていくものと考えています。

あくまでも「大人になったら働く」という子どもの意識を育てるのは、大人の意識を含む生活環境に大きく関係しています。その環境は、障がいの有無、障がいの程度に関係なくすべての子どもに等しく準備する必要があります。

また、働くという意識を育てる関わりは、学齢期の子どもにとってもけっして早すぎることはありません。

まずは子どもの成長に合わせ、親から「～をとって(して)ください」「ありがとう」などのコミュニケーションのある関係づくりからはじめましょう。そして小さい達成感を積み重ねる過程で頑張る子どもの意識を褒めて育てましょう。

私たち大人も同様に、日常生活や職業生活の中で役割があるからこそ家庭や職場の所属を意識しています。

役割のある生活を

子どもに役割のある生活をつくるには、家族の協力と連携は不可欠です。特に、夕食時には家族が集う機会が多く、一人一人の役割が作りやすい時間や場面かもしれません。家族のそれぞれが食器の準備、片付けなどの役割をもつというルールがそうです。

無理せず、確実にできることからはじめ、ひとつひとつの目標と達成を見守りましょう。次第に主体的な行動への変化が見られると、役割が増えていく可能性があります。例えば、食材、調理用具の使い方に興味をもち「調理がしたい」と要求する可能性があります。

ひとつの経験が様々な興味へと変化し、次の経験を促すような対応が必要になります。



日常生活で、意図的に将来のことを考える機会をつくることも大切です。「大きくなったら何になりたい?」とさりげなく話しかけたいものです。

子どもがチャレンジする機会を増やす

家族での外出は、子どもの日常の役割と職業の種類や内容との関係を学習する絶好の機会です。例えば、途中の給油所での洗車、レストランの皿洗い、食器の準備、片付け、フロアの清掃など「様々な仕事や働く人」を目にする場面が多くあります。

また地域社会にはルールやマナーを学ぶ機会も多く存在します。「いらっしゃいませ」「ありがとうご

ざいました」なども日常生活で学ぶマナーと同様です。さらに信号の色の意味、レジの前の順番よく並ぶことなどもルールを学ぶ機会です。これらのほとんどが家庭や学校での役割で学ぶ延長にあります。

しかし子どもにとって、家庭生活や学校生活は、社会参加の準備ですが、生きた学習機会は多くはありません。子ども自身が生きた学習を体験する機会は、地域社会の中にも豊富にあることを認識することが大切です。

このような家族での活動をとおして「子ども自身が様々な体験にチャレンジする機会」を増やしたいものです。

このチャレンジこそが、子ども自身と社会資源が繋がる瞬間です。この機会は主体性を育てるため、可能な限り見守りに徹する努力をしましょう。子ども自身からの感想や報告を待って、「自分でできたこと」「人に尋ねて教えてもらったこと」「できなかったこと」などの課題整理をしましょう。さらに「人への尋ねかた」や「お礼のしかた」など、必然的にコミュニケーションも学ぶ機会になっていきます。

主役は本人、支援者は黒子、の共同作業

課題整理は決して子どもの得意、不得意を評価するものではありません。

子ども自身の「努力すること」、支援で「工夫すること」を整理する共同作業です。子ども自身の得意なことを生かし、不得意なことに興味を示させ、工夫するための関わりの手がかかります。

この二つのポイントを整理しておきます。

一つ目は、障害と向き合うのではありません。子

ども自身の主体性への関わりを大切にしています。障害を克服するため、努力するのは子ども自身であることを理解することが大切です。子ども自身が自分の課題を理解し、課題を克服する働きかけをします。

二つ目は、子どもにとって家族、教員、支援者は、もっとも重要な環境ですが、支援のあり方に注意したいものです。あくまでも目標に向かう子ども自身が主体であり、支援者は黒子として情報を共有しましょう。

さいごに

このガイドは子ども自身の「働く意欲」へ働きかけのヒントを提供するためのガイドとして作成しました。

これまで障がいのある方を雇用した企業の「こんな人材がほしい」という視点からまとめたものです。内容は、企業、特別支援学校からの就労事例を紹介しています。

また学童期の家庭生活と学校生活の連携による役割のある生活づくり、さらに地域活動をとおして主体性を育てるためのものです。

従って、このガイドは、子ども自身の将来の目標を実現するために、保護者や支援機関に活用頂くことをお願いします。

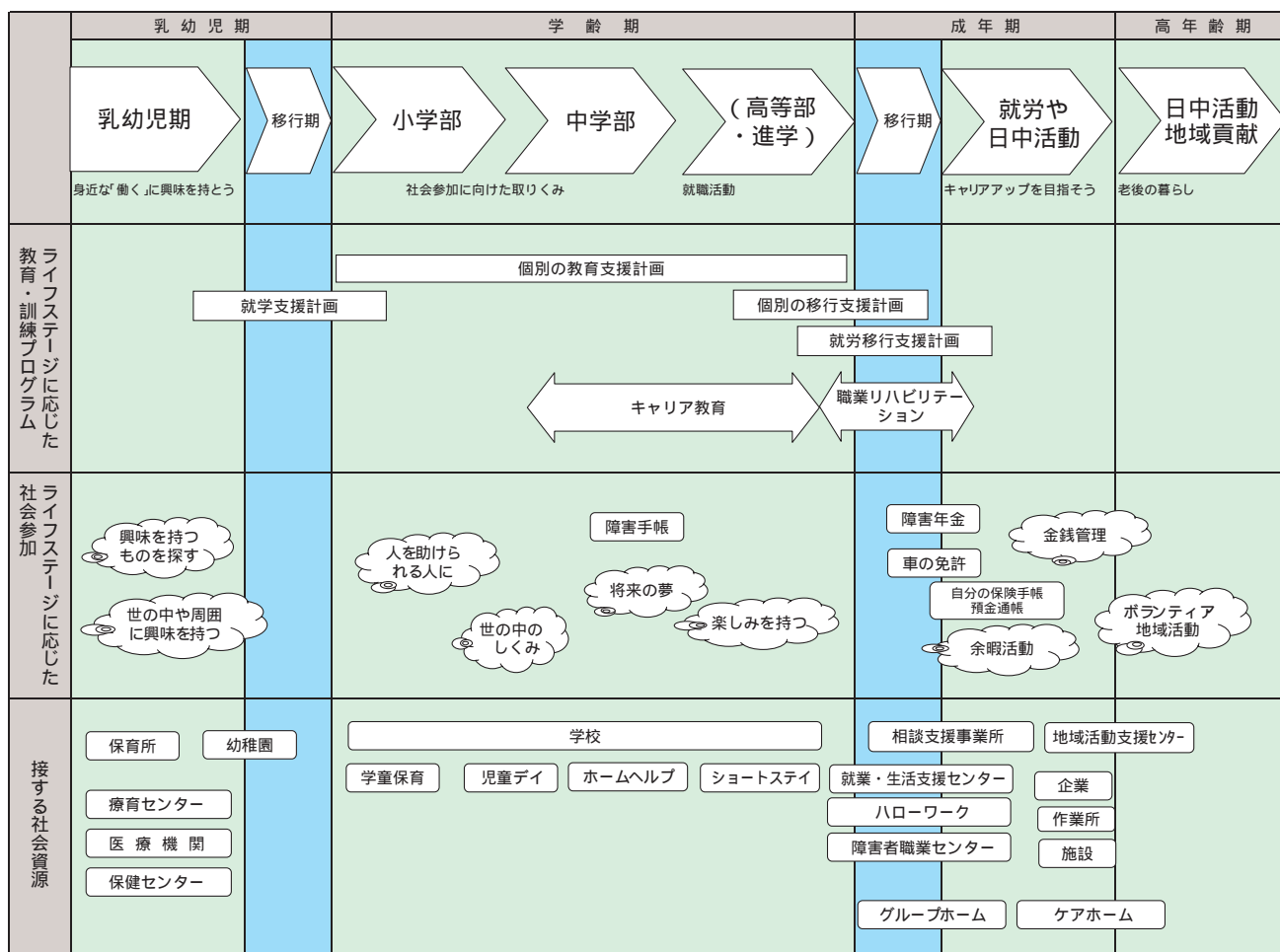
編集にあたっては、沖縄県中小企業家同友会、特別支援学校関係者、保護者会、児童施設、相談事業所、関係行政関係者の皆様の様々な視点からのご協力に感謝致します。さらにご利用頂く皆様から、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

外出先には
たくさんの「働く」
があります。



障害のある人のライフステージ

向上心と楽しみを持ち続けるために



「移行期」は大切

新しい環境や新しいサービスに変わる時期を、移行期と言います。

例えば、家庭から学校生活へ移行する時期、学校生活から社会生活へ移行する時期、福祉施設から企業就労へ移行する時期、施設から一人暮らしへ移行する時期、などがあげられます。

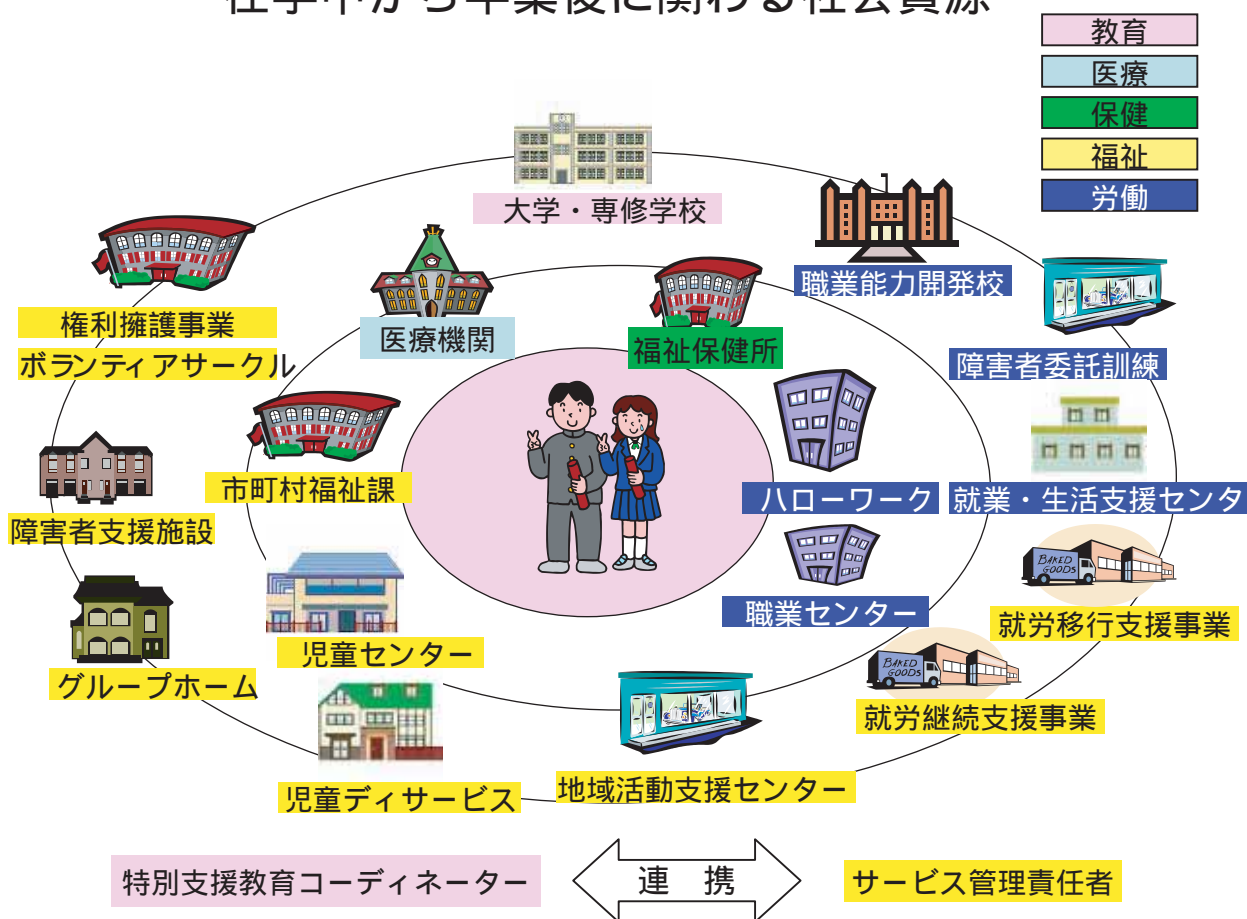
この時期は、生活も、環境も、関わる人達も、ガラリと変わります。新しい環境に適応するためには、十分な準備や練習が必要です。本人に合った方法で準備や練習を行い、移行後も、新しい環境への適応を支援する必要があります。

ライフステージから考える

ライフステージから、いつ何が起こるかを想像してみてください。現在のステージでは、次のステージへ向けて、前もって準備しておくことが必要です。

例えば、高等部になったら企業現場での職場実習が始まります。中学部の時期に、どの企業へ行きたいか調べたり、初対面の人に挨拶する練習をしたり、先輩から実習の話聞くことも、高等部へ向けての心構えになります。既に実習の心構えや準備ができていますので、高等部では実習の効果が高まります。さらに、高等部では、次のステージ（例えば社会参加）へ向けた準備を行います。

在学中から卒業後に関わる社会資源



将来の情報を集めてみよう

障害者の雇用支援フォーラムを覗いてみてください。

雇用支援フォーラムは、雇用企業の声が聞けるので、保護者が聞いても参考になります。

また、企業での雇用事例はこちらから。

障害者雇用事例リファレンスサービス（沖縄の企業も載っています）

<http://www.ref.jeed.or.jp/Search>



沖縄県中小企業家同友会主催 雇用フォーラム

就職までの親子二人三脚

保護者 伊禮 ひろみ

私の息子は、自閉症児としてこの世に誕生しました。それに気がついたのは息子が一歳半の頃です。長女のときと比べて何か違うと感じました。私は、小児科や、小児発達センターへ相談に行きましたが、そこで返ってきたのが「お母さん、気にし過ぎですよ。」と言う言葉でした。わたしは、その言葉を聞いてもなぜか安心できませんでした。その後、二歳半で市の検診にひっかかり、もう一度小児発達センターで診てもらったところ自閉症と診断されました。

ある日、息子と四歳年上の娘と私の3人は、行く宛もなく車を走らせていました。何時間走らせたでしょうか、その間なぜ私の子が？何も悪いことはしていないのに、これからどう生きていけばいいのか？、そんな言葉ばかりが頭をよぎり、このまあいっそのこと...と考えているときでした。「お母さんお腹空いた...。」と娘が一言。「は！」と思い、私は目がさめました。「私は、二人の子の母親なんだ、私が頑張らないと...」そう娘に気づかされ、その日から、私達親子の戦いが始まりました。

現実をどう受け入れて良いのか分からないまま、自閉症が治るものだと思い病院へも行き検査もしてもらいました。薬や手術が無いか探して行くうちにそうではないことが分かり始めました。3歳半から幼稚園まで母子通園を続け、必死になって息子の為に何が出来るか毎日考えました。その時です、息子の障がいにはばかり目がいていた私に、上の娘が「お母さんは、私がいなければよかった？」と聞いてきたのです。思いもよらない言葉にショックを受け、私は、娘に頭を下げ謝りました。そして、娘とのコミュニケーションも大切にしながら、息子の障がいの戦いが続けられました。幸いにも旦那は、子育てを私の自由にさせてくれました。私の両親は、息子をとてもかわいがってくれ、私を応援してくれました。

まず私は、息子の障がいが頭にあるのなら体は健康だ、と考えました。そして、息子の体力作りと、娘とのコミュニケーションを両立させるために毎日3人で散歩を始めました。そして、体力がついてくると、県内の親子トリムマラソンすべてにエントリーし、二人の子の手をしっかりとつないで必ず3人でゴールしました。マラソンを通して最後まで頑張る大切さ

を息子に分かってもらいたいと思ったのです。その頃から、娘と息子の関係も考え始めました。障がいのこと、なぜマラソンをするのかということ、弟のマラソンに付き合うとご褒美でアイスが食べられることなど。

息子が小学校へ入学する頃には、体力もついてきていたので担任の先生に「体は作ってありますので後は宜しくお願いします。」と預けました。先生のことを信頼しお願いすることで学校とも良い関係が築け、息子を成長させてもらうことができました。体を使うこと以外はなんでもできない息子でしたが、マラソンのおかげでしょうか、学校で習うことも最後まであきらめず、泣いてでもやり遂げようとしていました。

中学でも先生の方針にお任せし、厳しくしていただきました。お陰様で、中学は皆勤賞で卒業できました。高校受験では、沖縄高等養護学校を受験しなんと不合格をもらってしまいました。受験失敗は息子にとって初めての挫折で、何を思ったのか息子は出身中学の校長先生のもとへ行き「必ず沖縄高等養護学校へ行きたいので宜しくお願いします。」と言ったのを覚えています。浪人時代は、知り合いの飲食店の手伝いをしながら二年目念願の沖縄高等養護学校へ合格し息子は泣いて喜んでいました。

沖縄高等養護へ入学してから一年生の時は、寄宿舎の集団生活でイライラし、二年生の時は就学旅行でイライラ。3年生では、一学期に寄宿舎の先生を蹴ってしまい強く指導を受けました。その時に「社会人だったら警察だよ。」といわれ、社会の厳しさを感じ落ち着き始めました。その後から、息子の就職活動が本格的にはじまりました。その間、那覇マラソンにも挑戦し、学校の先生方と練習をして完走できました。那覇マラソンの完走でまたひとつ自信を持つ事が出来ました。

就職活動は、実習中の本人の体調管理、こえかけ励ましなどまさに親子二人三脚、『採用可能』から『採用できない』など二転三転と事業所も変えて実習をしましたがなかなか決まらず、とうとう卒業式の日を迎えました。卒業式の朝どんな顔をして花道で息を迎えようかと考えながら学校へ行くと、「お母さんおめでとうございます。ハマシヨクさんが採用可能と今朝連絡がありました。」と慌てて



仕事中の息子さん

先生が報告してくれました。それを聞いた私は、これまで頑張ってきたことが報われたように思えました。先生方を信頼して良かった、PTA活動も頑張った良かった。マラソンも頑張った良かった。

働いて初給料をもらった息子は、てれながら私に給料を見せ、私が、「これどうするの?」と聞くと「おばあちゃんにあげたい」といって祖母に小遣いをあげに行きました。小さい頃からかわいがってくれた祖母は、孫が持ってきてくれた初給料をととても喜んでくれて、息子も恥ずかしそうに喜んでいる様子がわかりました。祖母へのお小遣いは、今でも毎月続いています。

社会人一年生の息子に責任感や就労意欲を持ってもらうために私がさせたことは、預金通帳を作らせ、頑張ったら給料が入ること、それから携帯電話代、お小遣い、など使いすぎるとすぐにお金が無くなっていく事を本人に確認させました。その次に、「働いたご褒美なにがいい?」と聞くと、「韓国旅行」と答えたので、その日から韓国旅行の計画をし貯金、切符の購入これらをすべて息子本人にさせました。そして、一年目にそれを実現しました。

私達家族は、全員で息子に愛情を注ぎ沢山誉めてあげました。息子は今でも家族に誉められたくて仕事を頑張っています。息子の存在が私達家族にとってプラスになるようにつねに前向きに考えてきました。弟が障がいを持っているおかげでお姉ちゃんはアイスクリームにありつける。弟がいてくれてよかったと娘にも思っていて欲しい、私の願いはいつか娘にも通じ娘は、弟をととても大切にしてくれます。

私は息子が自閉症と診断された当時、家中のカーテンを閉め引きこもりになっていましたが、今、毎朝元気良く「行ってきます」と出勤し、夕方、笑顔で「ただいま」と返ってくる息子の姿を誇らしげに見ています。

2 . 日常生活での取り組み ～ 家庭生活と学校生活～

自分でやってもらうよりも、周囲が手伝ってあげたほうが効率が良いという理由で、周囲の大人が全部やってあげていませんか？自分でできるようになるためには、本人に合ったやり方にする、少しずつできるようになること、わかりやすく教えること、が大切です。

ここでは、個別支援の考え方（本人に合ったやり方）と、ジョブコーチの教え方を紹介します。また、社会生活や就労現場に必要な習慣を習得するための取り組み事例をあげました。

保護者アンケート結果より

アンケート調査概要

【目的】障がい者雇用に関して、作業技術等よりも、就労意欲や生活習慣等が就職・定着課題となっているが、家庭で就労がどの程度意識されているのか、また家庭における支援の課題について調査する。

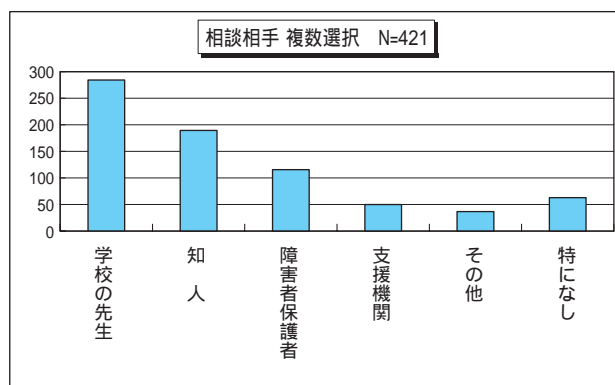
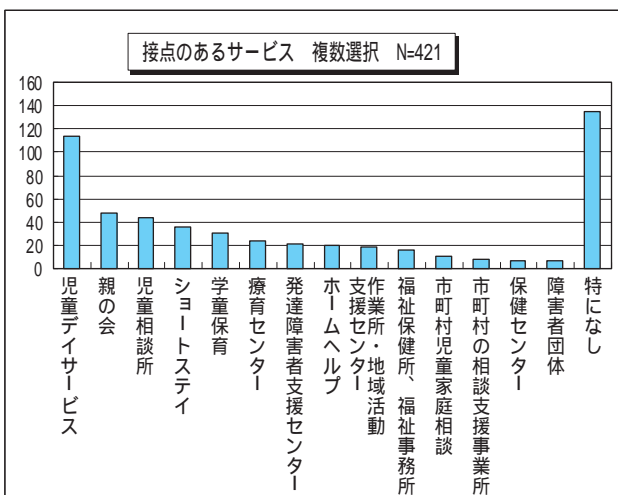
【対象】特別支援学校、特別支援学級の生徒の保護者

【規模】421名

【調査時期】平成19年11月

つながっている支援機関や相談相手が少ない

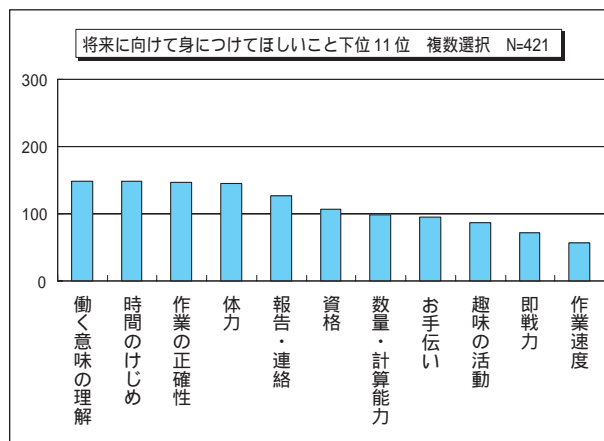
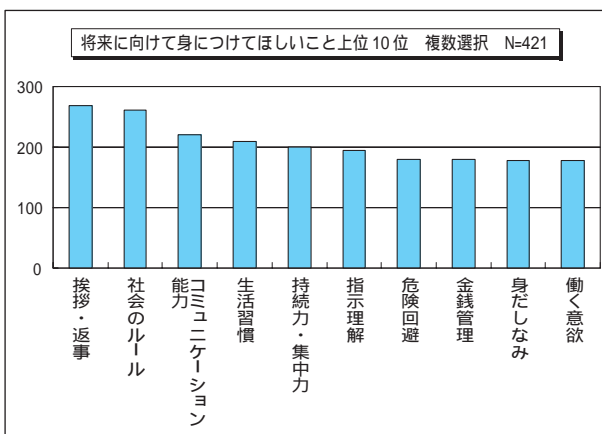
接点のあるサービス機関で最も多いのは「児童デイサービス」ですが、それよりも「特になし」のほうが上回っています。また、相談相手も学校の先生が最も多く、学校以外に子どもの療育や教育に関する情報を得る機会がないことが示唆されます。



H19.11 沖縄県雇用労政課 保護者調査

将来身につけてほしいもの

企業が最も重視する「働く意欲」よりも、保護者は「生活」や「社会性」を重視しています。また、保護者が重視する「社会的ルール」や「コミュニケーション能力」「生活習慣」が、企業での雇用継続課題になっている点も見逃せません。(P.33 参照)

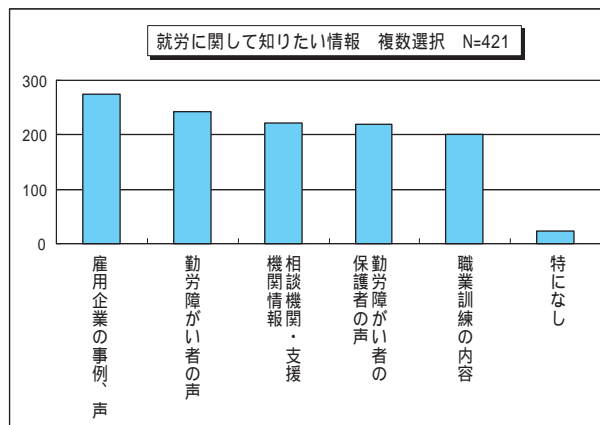
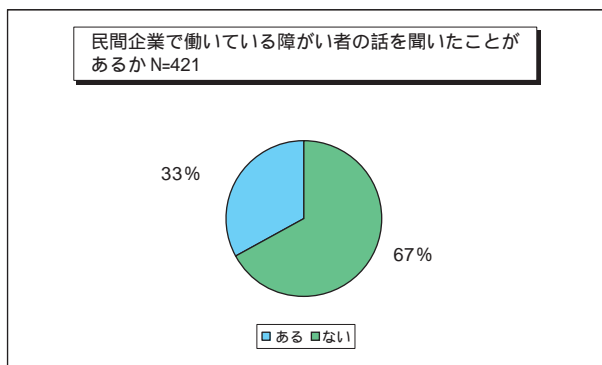


H19.11 沖縄県雇用労政課 保護者調査

就労の情報は、興味はあるけど、身近では聞いていない

企業で働く障がい者の話を聞いたことがあるのは約3分の2。その中でも、どこで聞いたかというところ、テレビ・ラジオ・雑誌等で(31%)、学校で(28%)、支援機関で(10%)、雇用フォーラムで(8%)となっており、もっと身近な事例の情報提供が必要であることがわかります。

また、就労に関しては全体的に関心が高く、企業の声、当事者の声、保護者の声、支援機関情報なども同時に情報提供が必要です。



H19.11 沖縄県雇用労政課 保護者調査

その他、保護者アンケートから自由意見を抜粋

人との関わりの中で、挨拶などコミュニケーションをとる。

日常生活の中で役割を与え、実践させている・小遣い帳の記入を行う・買い物を計画し、ムダのないよう意識させる。

日常生活ではなるべく自分の事は自分でする様に、今は毎日教えながら生活してますけど思う様に出来ません。

将来は健常者との付き合いもあります。コミュニケーションも大事な事と思います。また、時間のけじめの事では、厳しく話します。それから、その子のためにも仕事が理解できる、いつまでも続けられる仕事につかせるためにも資格は取らせてあげたいです。

趣味の活動というか、運動の1つとしてスイミング教室に通っている。好きなことなので自分から着替えの準備をして1人で自宅前から教室のバスに乗り、通っている。スイミング教室で他の人との関係、自分の順番が来るまで待つ、指示に従うことができるようになった。

公文教室でプリントを与えられた分をやるまで頑張る 集中力

本人の働きたいという、気持ちを大事にしたい。職業訓練の場があれば良いと思う。

余暇の過ごし方が最大のテーマかと思われます。ほとんどの子が職場と家庭の往復の生活で、家族とだけ過ごすといった話をよく聞きます。障害(全ての)者が気軽に行ける施設があればいいと思いますが...

身内に経済的に頼れる者がいないため、最低限の自立生活が送れるような環境に身を置かせたい。まだ教育終了後の事はあまり考えてない。

不安が大きくて、何も考えられない。とても心配ですが、手先が器用なので、なんとかこの才能を良い方へ伸ばす事はできないものかと思います。

社会がまだ十分に認知してないのでは?もっと社会に対し声を挙げた方が良いと思います。

身体的な事の情報が多いが知的な事への情報が少なすぎる。

本人の声に耳をすまそう 個別支援と、自立へ導く教え方

ポイントは、「個別支援」

教育分野でも、福祉分野でも、「個別支援」の考え方が強調されています。

障がい者の場合1人1人の状態やニーズに対応した「個別の」方法で支援することが有効だからです。

集団の教育方法や訓練方法に合わないからと言ってあきらめる必要はありません。本人に合った適切な教育や支援を受け、本人がチャレンジすることで、社会でも力を発揮します。これを「エンパワメント」という表現を使うことがあります。



自分で決める、社会の常識を知る

ところで、障がいがあるという理由で援助してもらおうことが多く、自分で考えて、自分で行動する機会が減ってはいないでしょうか。また、社会の常識やルールを免除されていないでしょうか。

ある人は、宅配ピザを、自分で電話して注文したことがありません。ある人は世の中の仕事を、自分の可能性として見渡したことがありません。ある人は、遅刻しても叱られたことがありません。などなど...

自分のことを知ること、周囲に興味を持つこと

まずは、本人が自分のことを知ること、自分の周囲に興味を持つこと、が大事です。

本人を取り巻くものや、好きなもの、好きな人、好きな場所、得意なこと、など、本人にとって楽しいことをたくさん書いていきます（絵や文字を書くのは手伝ってもらっても構いません）。絵が完成し

たら、みんなの前で発表します。

自分で考えて、自分でプレゼンテーションをして、人に伝えようという気持ちを持つ、という経験は、大きな自信につながります。

ある企業では、毎朝の朝礼で、健常者も障がい者も全員挨拶するそうです。最初は緊張していた方も、日に日に自信に満ちて、自分の言葉で喋れるようになっていきます。

チェックリストと、課題の見つけ方

障害者自立支援法の新しいサービスに合わせて「就労移行のためのチェックリスト」というものが発行されました。

就労移行チェックリストでは、就職する目安として、生活リズム、身だしなみ、金銭管理、あいさつ、等をあげています。

http://www.nivr.jeed.or.jp/research/kyouzai/19_checklist.html
(障害者職業総合センターサイト)

チェックリストがあるといっても、単純に、できる、できない、だけを判定して終わりではありません。

朝起きられない、という問題を事例に取ってみると、「早く起きなさい」と叱ることは解決策でしょうか。

まず、朝起きられない原因を考えてみます。

「根性がないから」でしょうか。「わがままだから」でしょうか？しかし、そのような原因を設定してしまうと、対策方法が、的外れになってしまうのです。

例：「根性をつけよう」 寒中水泳？剣道を習う？

逆に、本人の声に耳をすませてみると、実は「夜にお兄ちゃんと一緒にテレビを見るのが好き」という積極的な欲求があるのかもしれない。または「夜に1人で寝るのは寂しい」という理由かもしれない。本人の声が聞こえてくると、おのずと工夫する方向が見えてくるのではないのでしょうか。



絵で自分のことを発表してみよう

ジョブコーチノウハウ(教える技術)

ジョブコーチとは、就業現場で障がい者の援助を行う人のことです。まず、ジョブコーチは、課題を見つけることから始まります。そして、当事者が業務を1人でこなせるようになるために(自立するために)支援をします。

例えば、朝起きられない子がいたら、起きられないからという理由で、保護者が毎日起こしてあげていませんか? 着替えができない子がいたら、着替えができないからという理由で、保護者が服も選んで着せてあげたりしていませんか?

しかし、一連の「朝起きる」の動作の中で、本人は、目を覚ますことはできるけど目覚ましの音が嫌いなだけかもしれません。一連の「着替え」の中で、タンスの上の服は取れないけど、気温に合わせて服を選べるかもしれません。

ジョブコーチの手法では、1つ1つのできること、できないことを見極め、できることをつなげていきます。(P.16 参照)

本人も関わってもらう

ただし、周囲が勝手にカリキュラムを決めて、で

きる、できない、を見るのではなく、本人と話し合いながら、目標と達成段階を確認しながら、進めていきます。

問題の原因も、成長の種も、本人の中にあります。また、本人が目標を自覚しているのと、していないのでは、全く成果が異なります。

社会と接するチャレンジを

職場体験実習で企業などに実習に行った特別支援学校の生徒達は、「緊張した」「怖かった」「喋ることができなかった」などと言います。また、将来何の仕事をしたいかと聞くと、実習で経験した業種だけをあげる 경우가多くあります。

これは障がい原因ではなく、おそらく、日常生活で接している社会人や社会資源が限られているからだと考えられます。

障がいがあるからと言って、制限されるわけではありません。就労でも、工夫と知恵で解決できることは多くあります。子どもの時期から、いろんなことにチャレンジしてみて、生活の場を広げてみてください。

一人一人のニーズに合った支援のために 個別移行支援計画

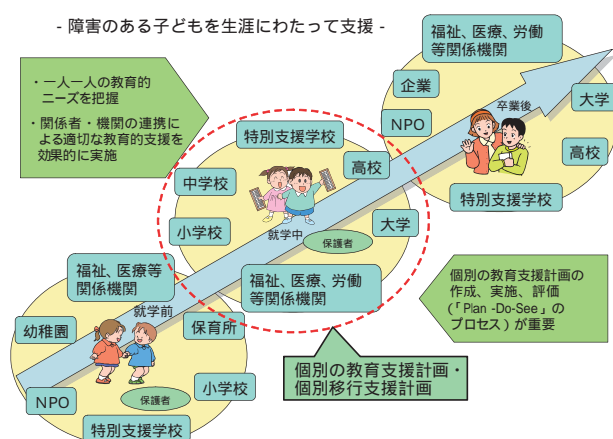
特別支援教育を推進する個別の支援計画

平成14年厚生労働省が発表した「障害者基本計画」に、「障害のある子どもの発達段階に応じて、関係機関が適切な役割分担の下に、一人一人のニーズに対応して適切な支援を行う計画（個別の支援計画）を策定して効果的な支援を行う」ことが示されました。

平成19年度、制度化された特別支援教育を推進する仕組みの一つとしての「個別の教育支援計画」と「個別の支援計画」は概念として同じものであり、教育機関が中心になって策定する場合に「個別の教育支援計画」と呼びます。

また、「個別移行支援計画」は「個別の教育支援計画」の一部（高等部段階の計画）を成すものであり障害のある生徒にとっての大きな節目となる「学校生活から社会生活への移行」に対する支援計画となるものです。

個別の教育支援計画・個別移行支援計画



個別移行支援計画とは

「個別移行支援計画」とは、障害のある生徒一人一人の高等部在学中から卒業後の社会参加への移行を円滑に行うための橋渡しプランです。

高等部入学から卒業後3年程度までの6年間という長期的視点から、生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、保護者をはじめ、福祉、労働等の関係機

関、企業等との連携を密に図りながら、適切な支援を行っていくためのツール（道具）です。

本人、保護者の希望をもとに、進路指導上の課題や学習内容について共通理解を図り作成していきま。記載する内容は「進路相談の記録」「本人・保護者の希望」「就労等に向けた課題と手だて」「就業体験のまとめ」などです。

卒業後は、生活の場や進路先での支援と各関係機関の役割分担を明確にしたもので、具体的な支援の領域は、家庭生活、趣味・余暇・地域生活の充実、医療・健康面での配慮、移動手段に関する配慮、事業所や就労支援機関などの支援、施設・作業所における支援などがあげられます。

「個別の教育支援計画」と「個別移行支援計画」を活用した指導

小・中・高等部の一貫した職業教育

特別支援学校における、職業教育は児童生徒の障害の状態、特性及び発達段階等に応じて小・中・高等部で系統的に行っています。

小学部での日常生活の指導、生活単元学習（調理実習、栽培、買い物学習等）、中学部からの作業学習（農業班、家庭班、木工班等）、自力通学指導、就業体験、高等部の現場実習等や教育活動全体をとおして、職業生活及び家庭生活に必要な基礎的な知識、技能、態度の習得を図るために、支援計画の下で課題を明らかにして一貫した指導が行われます。

高等部での進路指導

- ・本人・保護者の希望から個の課題が明確になります。
- ・「個別移行支援計画」で本人の卒業後の自立・社会参加へ向けた具体的な課題を明らかにし、各教科において具体的に指導していきます。その結果を評価して課題を明確にして、支援の手だてを見直します。
- ・就業体験及び現場実習等の学校外の体験的学習の評価結果から課題を洗い出します。

- ・ 支援会議などで課題を整理して、指導により改善可能な課題は指導内容・方法の工夫をして学校の学習指導や家庭にフィードバックし、進路先での環境整備や人的支援が必要な課題は「個別移行支援計画」に記載して進路先に確実に伝えていきます。

本人・保護者の参画と個人情報

支援計画は、本人の主体性を大切にして、本人・保護者の願いを十分に聞いて計画を作成又は改訂します。

保護者も重要な支援者の一人であり、支援計画の作成等に積極的に関わることが望めます。また個人情報は、保護者の了解の下、関係機関と信頼関係に基づいた情報の共有をおこないます。

関係機関との連携

関係機関とは、児童生徒が就学前から卒業後の社会生活へ移行する時期において、支援に関わって具体的な役割を果たす組織・機関をいいます。本人のニーズは通常多岐にわたるため、複数の機関が連携し役割を分担して支援していくことが求められます。学校生活から社会生活へ移行する時期の関係機関としては、次の機関が関わってきます

- 労働・雇用関係機関：就労支援
- ・ 公共職業安定所（ハローワーク）：求職登録、職業相談、職業紹介、定着指導、職業能力開発校の相談など、障害者の就職や職場定着に向けて一貫した支援を行います。
- ・ 障害者職業センター：職業評価をもとに職業リハビリテーション計画を立てジョブコーチ支援を活用しながら、職場適応へ向けて支援を行い、また、事業主に対する相談、助言を行います。
- ・ 障害者就業・生活支援センター：地域における障害者の就業面や生活面に関する指導・助言、職業訓練、職場定着支援など就業面と生活面を一体的に支援を行います。
- ・ 企業：雇用支援制度を活用した職場環境の整備。
- ・ 授産施設：障害者に対し、その能力に応じて働く場を提供する施設です。
- ・ 小規模作業所：在宅の障害者が地域の中で働く場・活動の場として、親等が中心となって自主的に設

置、運営している施設です。

福祉・医療等関係機関：生活支援

- ・ 市町村障害福祉担当課：障害福祉サービスの窓口です。身体障害者手帳・療育手帳申請、障害者施設利用等に関する相談などに応じます。
- ・ 地域生活支援相談事業所：生活面での課題について情報提供や相談支援を行います。
- ・ 市福祉事務所、県福祉保健所：高齢者・障害者・児童・母子等様々な方々の福祉の総合的な相談を行っています。
- ・ 専門医：定期的な通院、服薬管理等。

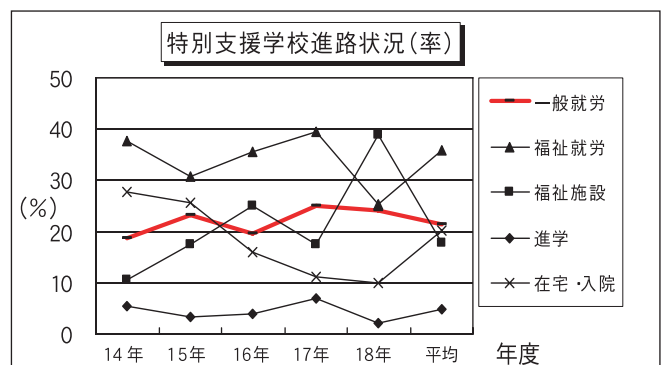
支援会議による連携

「個別移行支援計画」の作成・活用において具体的な支援を担当する関係者、関係機関が情報の共有や支援内容・役割等の確認、評価及び見直し等を行う場で、メンバーは十分な理解と協働して支援するという意識が必要です。また、卒業後は、定期的な開催や、トラブル時の緊急対応等、必要に応じ会議を開催します。

会議のコーディネーター役は在学中は学校が行い、卒業後3年間を目途に本人の社会生活への移行に伴い、出身学校から支援の中心となる機関へと移っていきます。

参考資料

特別支援学校卒業生の進路状況



主な就職先

製造業中心からサービス業へ移ってきている。
(スーパー、食品加工、クリーニング業、清掃業、ホテル業、老人介護事業、保育園、造園業、自動車販売、運送業など)

生徒達の就職までの道のり

沖縄高等養護学校 進路指導 平安名 栄 樹



卒業したら働きたい生徒達

「先生、私の実習先は決まりましたか?」「なに?まずは『おはようございます。』からですよ。」

毎朝、進路室で見られる光景です。沖縄高等養護学校は、軽度知的障がい児の高校生が通う養護学校です。卒業までに6回の現場実習をします。三年生になると卒業後の進路に結びつく事もあり生徒は必死になって進路室に職場開拓のお願いにくるのです。

進路室前に張り出された現場実習一覧表を毎日見にきては、「やったー決まったー」と喜ぶ生徒「先生まだですか?」と中に入ってくる生徒、気にはなるが進路室には入れない生徒、他人任せの生徒。さまざまですが、生徒たち全員の心の中には卒業したら働きたいという気持ちがとても強くあります。本校では、「ニート」や「フリーター」と言った言葉は聞いた事がありません。

現場実習へ向けた作業学習

「実習で合格をもらうためにはどうしたら良いですか?」との問いかけに「挨拶返事をがんばる、遅刻をしない、休まない」と答えが返ってきます。これは、一、二年生の回答です。三年生ともなると「元気よく挨拶をする、い

われた事は最後まで頑張る、終わったら、次何をしますか?と聞く。」など現実的な答えが返ってきます。そこまできると就労も近くなってきます。

授業では作業学習の時間が多く設定されており、その中で働くための基礎・基本『挨拶・返事』『報告』『指示を受ける態度』『集中力』などを学習しています。

一年生の6月に行われる校内実習は、就労のイメージをつけるための大事な実習になります。作業学習の中の6コース(農業、園芸、縫製、クリーニング、木工、窯業)を工場に見たて、朝ラジオ体操、社訓朗読から始まり二週間みっちり子ども達は体験します。

ちょうどこの頃は、寄宿舎に泊まるのもようやく慣れてきた頃で、「家に帰りたい」と毎日泣いた子が真剣な顔をしてラジオ体操を頑張ります。

子ども達にとっては長い二週間で、体調不良を訴える子も出てきますが、職員の呼びかけに何度も気合を入れなおしながら、二週間が終わります。

生活の自律へ向けて

「先生彼氏できた」「さんに告られた」などと、本校に入学して始めて恋も覚えます。恋愛の悩みも就労とは少し離れますが、ルールを決めながら

男女のお付き合いについても学校、寄宿舎で学んで子ども達は成長します。中学の頃までいじめられて引きこもったり、お友達がなかなか作れなかったりした子も、行事や、部活動などを経験する中で生き生きしてきます。

寄宿舎での生活は、規則正しい生活により心身ともに健康になる生徒や、友達や、恋愛の悩みなどを先生や先輩に相談して強くなっていく子もいます。

「先生、バス賃足りませんでした。」「どうして?」「おやつを食べたから。」一、二年生の現場実習金銭指導での様子です。

体験的な現場実習は、一年の二学期と二年の一学期、二学期の三回です。出来るだけ希望の職種を三種類体験します。学校の寄宿舎から通勤をするこの実習は、働く態度はもちろんバス賃や、お弁当の管理、なども勉強します。生徒たちは、いろいろな職種を体験して将来どのような仕事につきたいかを考えます。

社会のルールやマナー

この時期は社会のルールや、マナーについても厳しく指導します。時には実習を中断したり、延期したりする事もあります。社会の厳しいルールやマナーを、守れなければ社会人になって本人がとても困ってしまいます。

仕事が上手でなくても挨拶や返事、素直さがある生徒は、仕事についた後も長く続けられます。ウソをついたり、遅刻をしたり、仕事を怠けたりすると、職場にいつらくなり結局自分から仕事を辞めてしまうというケースがよくあります。

しかし、このような習慣は、本校に入学する前に出来ている生徒とそうでない生徒に分かれており、幼い頃からの経験がとても大きく影響します。高校三カ年間でこれまで十六年間の習慣を改善するという難しさに我々職員は日々直面しています。

就職目前の実習

保護者も一緒にがんばる

「やったー合格だー！」「俺は駄目だった。」三年生ともなると三回の実習で採用とも絡んでくる評価が出てきます。最終的に内定は、職安との連携の中で決定していきますが、生徒たちにとっては、実習での評価が一番気になるところです。

保護者も必死です。実習中の保護者参観では、保護者が実習先で評価されます。事業所側は、卒業後の家庭支援をとてども気にします。評価用紙には、生徒の項目しかありませんが事業所側は、生徒50点保護者50点で採点をしていると言っても過言ではありません。就労に対する保護者の姿勢が問われるところです。

「先生、実は...。」「え～おかあさん、もっと早く言わないとお」または、「おまえは、どうしたいか？」「本当はスーパーがいい。」「なに？そんなの父ちゃんに聞いてないよ」またまた、「先生、やっぱりもっと条件の良いところないですか？」三年生の三回の実習では、毎回終わるたびに本人、保護者、担任、進路担当で、四者面談をしています。実習の評価を踏まえ、次の実習をどう

するかを話し合います。

本人の希望だけでは、進路決定は出来ません。進路決定には、家族の協力と、理解が必要不可欠です。また、進路の取り組みは、早め早めにするのが鉄則です。高校三年の二学期、三学期で上のような会話が実際にあり、そうなるよう進路担当はとても慌ててしまいます。卒業後の進路については、日頃から家族で話題にし、少なくとも高校二年の三学期頃には具体的に決めておきましょう。

そして、社会人1年生として

「卒業おめでとうー。」「お仕事頑張ってください。」と、卒業式には全員をこのように祝福してあげたい、それ

が本校職員全員の願いです。奇跡体験のテレビのように採用が決まっていく生徒もいますが、準備不足で就労訓練などの関係機関へつないでいく場合もあります。

卒業後数年は学校も関わり、地域の就業・生活支援センターの支援を受けながら社会人生活がスタートします。

それでもまだまだ十八、十九、一人前とはいえません。保護者の皆様はもうひと踏ん張り。卒業生は、社会人一年生として学ばなければならないことが山ほどあります。家族、社会（支援センター、職業センター、職安、地域の相談窓口、学校）、職場（事業所、職業訓練）の支援を受けて子ども達は、本当の自立へと歩んでいきます。



就業者

吉本将道さん



高校時代の僕は、一度も働いて稼いだ事がなかったので、仕事をすることによって不安がありました。実際に『デイサービスたんぼぼ』での現場実習が決まった時は、老人ホームにいった事もなく、こういった仕

事内容なのかもよく分からず不安と緊張で現場実習にのぞみました。やっぱり実際に始めてみると、想像していたよりもすごく大変で、やっていけるかなあと思いましたが、僕なりに精一杯頑張って無事に実習を終えることが出来てすごく嬉しかったのを覚えています。

僕が働くことを決めた理由は一番に、お母さんの事を助けてあげたかったからです。僕が小学校二年の時お父さんが亡くなって、それからお母さんは、五人もの兄弟を女手一つですべて育ててくれました。金銭面でもすごく苦労していたのをずっとそばで見えていたので少しでも協力してお母さんを楽にしてあげられたらと思い働く事を決めました。

卒業してから『デイサービスたんぼぼ』でトライアル雇用をはじめ、ジョブコーチさんや職場の先輩から習い仕事を覚えました。そしてその後『たんぼぼ』で就職が決まりました。職場でははじめ、部屋の清掃を午前中だけやっていましたが、今は、4時までデイサービスでお年寄りの介護を頑張っています。

これから僕もお母さんの手助けが出来ると思うとうれしい気持ちですが、また社会人としての不安と希望もありました。これからは、少しずつでも自立して行って今よりもお母さんを休ませてあげたいです。そしていつか僕が貯めたお金で家族みんなを旅行につれて行く事が今の僕のなによりの夢です。

教える技術・伝える技術 (ジョブコーチの手法から)

北部障害者就業・生活支援センター 中村 淳子

わかりにくい教え方と、わかりやすい教え方

就労支援では障がいのある人にとって安心で、わかりやすく教えます。では「わかりやすい教え方」を考える前に「わかりにくい教え方」をあげてみます。

【わかりにくい教え方】

1. 教える側がやり方を理解していない。
「うーん、ちょっと待っててね、どうすればいいんだろ...」
2. 教える手順がコロコロ変わる。
「こうやってください、イヤ、やっぱりこうやってみようかな」
3. 人によって教え方が違う。
「今日は私のやり方で教えるからね...」
4. 話が長い、言葉が多い。
「もっとていねいに、それでは雑、きれいに、すみずみまで...」
5. 説明がなくやり方を見せるだけ。
「やって見せるからね、ほら簡単でしょ、はいやってみて」
6. 正しく出来ても誉めない。
「ちがう、ちがう、まったく何回言ったらわかるのかなー」
7. ほめ方が漠然としていて具体的ではない。
「今日はずいぶん良かったね、うん、良くなってきた...」

逆に、「わかりやすい教え方」は「わかりにくい教え方」の逆をすれば良いのです。

【わかりやすい教え方】

1. 教える側が手順を理解しており、いつも同じ手順で教える。
2. 基本となる手順を固定させる。そして指示や手がかりの出し方がうまい。
3. 誰が教えても、教え方は同じにする。
4. 言葉かけは必要最小限の具体的指示に固定する。
5. 言葉・ジェスチャー・見本の提示を上手に組み合わせる。(後で説明)
6. 正しくできたらその場でほめ、否定的な言葉は使わない。
7. どのやり方が正しいかがわかるように具体的にほめる。

手順を分解し、時系列に並べる

次に、ひとつの仕事の手順を小さな行動に分けて、時系列に並べます。このように書くと難しく考えてしまいますが、身近にたくさんあるマニュアルや組立表などです。

カップラーメンの作り方を思い浮かべるとわかりやすいのではないのでしょうか。

箱作りを例にとって、行動を並べてみます。

箱を立てる

小さい方の底を折る

大きい方の底を折る

ガムテープを張る この4つに分けます。

絵や写真を使う

文字だけで分りにくい時には、絵や写真を使います。



どうでしょうか？写真を使う事でわかりやすくなったのではないのでしょうか？

手がかりを示す

また、細かい部分は、手がかりを示す事も有効です。右上の写真の「ピットン」は、物や動作に名前をつけ自立へ導く方法です。

この行程で、ガムテープをクシャクシャのまま、きれいに貼る動作がなかなか出来なかったため、この行程の前には「のばして」という手がかりを示し、



最後に「ピッタン」と示しました。「ピッタン」＝「箱へきれいにガムテープを貼る」という動作と理解する事で自立へ導きました。

このようにポイントや手がかりをわかりやすい言葉で示します。

間違いやすいところを示す

間違いやすい所を示します。道具に目印をつけたり、補助道具を作る事も有効です。

やってよい事、やってはいけない事を明確に示す

さんへ！ ひもをきるとき

ひものしたはダメ！ カッターはひものうえ！

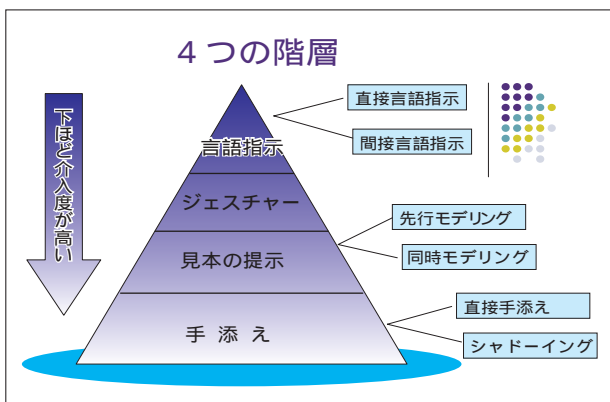
上の図は、カッターで紐を切る作業です。

何度も手を切る事があり「言葉の指示」だけではなく、視覚で理解できるように、作業台の前に貼ることで改善を図りました。

介入度に応じた4段階の教え方

次に、教え方です。下の図を意識しながら教えます。

「言葉の指示」で出来るのであれば、「言葉のみの指示」で行いますが、言葉で迷っている場合は、より介入度の高い「ジェスチャー」で、物や方向を指差すなどによって、次の仕事の手がかりを示します。例えば、ガムテープを貼る動作を、横について「ジ



ェスチャー」で見せる等です。

それでも、まだ迷っている時には、「見本」を示し一緒に作業をやってみせます。まだ迷っている場合には、「手を添えて」一緒に行います。

しかし、身体を触られることは一般にあまり歓迎されず、特に自閉症の人は感覚過敏で、身体接触を極端に嫌がる事があるので、そのような場合には、身体に触れるか触れないかの距離で手を動かし、まるで陰のように同じ動きを作ります。このような方法を「シャドーイング」と呼びます。

出来ない様子を見ても、代わりにやってあげない

何かをしていて、出来ない様子を見てみると、すぐに手を出してしまいがちですが、そうではなく、その人にとって最小限に必要な指示で教える事で自立へ導きます。

迷っている時には3～5秒待ちます。

正しい行動をした時には誉める事で行動を強化してあげましょう。教える時には、感情的にならずに「静かに」「クールに優しく」表情や態度のコントロールも必要です。

まとめ

「わかりやすく教える技術」は、

行動を単位毎に分けて、言葉で教える、ジェスチャーを使う、見本を見せる、手添え、を使い分け、話し言葉の理解が困難な人に対しては、文字や絵カードなどの視覚の手がかりを活用して教えること。

落ち着いて見通しをもって仕事ができるように物理的環境や道具を工夫すること。

その他、障がい特性に応じて、「何を、どのように、どれくらいしてほしいのか」を的確に伝える方法と技術です。

これは障がいのある方の就労支援の「わかりやすく教える技術」のごく一部になります。

もっと深く学びたい方へは、小川浩著「ジョブコーチ入門」(エンパワメント研究所)をお勧めいたします。

参考文献「ジョブコーチ入門」小川浩著エンパワメント研究所「ジョブコーチハンドブック」小川浩著(絶版)

これまで振り返って

平 田 聖 人



私は小・中学校を養護学校に通いました。

入学前に地域の小学校と養護学校を見学したことをおぼるげながら覚えています。小さいときの記憶であり、もう20年以上も前のことなので、どうして養護学校に決めたのかは覚えていませんが、両親は私の気持ちを尊重してくれました。

しかし両親は地域の学校に通わせなかったのだと思います。

小学4年生のときに小学校に体験入

学をさせたり、「中学校からは普通学校に行ったら?」と言ったりしていました。

私は杖歩行なのですが、体験入学のときに休み時間に廊下を走る児童がぶつかってきそうで怖いと思ったことで、養護学校に通い続けることになりました。

地域の学校に通うこと、統合教育が声高に叫ばれる今、私が養護学校に通い続けることに決めた理由は、とても小さなことで、一步踏み出す勇気がなかったかもしれないと思います。

新聞等で、私よりも重度な子どもたちが地域の学校に通うために頑張っている姿を見ると、臆病だった自分が恥ずかしくなります。

でも今でも養護学校に通えたことはよかったと思っています。

少人数で、自分のペースで授業を受

けることができたのも養護学校だからできることです。高校からは普通学校に通い、40人学級で、授業のペースについていくことに苦労もしましたが、中学校までに自分のペースで基礎をきっちり学べたので、なんとかついていくことができました。

大学に進学し、障害を持つ方にパソコンを教えるボランティアをする機会がありました。

パソコンを就職や社会参加につなげてもらうための活動でしたが、情報化社会ではパソコンと就職は切っても切り離せないこと、また就職することは大変な状況なのだということを感じました。

そのような活動をしてきましたが、私自身は就職していません。

これから就職するときにはこれまでの経験や、人と人とのつながりが役に立ってほしいと思います。社会参加だけで満足してはいけないと思いますが、社会参加を栄養にして、就職という芽が出せればよいと思います。

すぐに芽が出る種、時間がかかる種があるように、一人ひとりペースが違います。効率を求めるあまりに時間に追われる社会ですが、待つというゆとりのある社会であってほしいです。

そして私たちも周りの優しさに甘えることなく、自分なりの芽を出し、自己実現という花が咲くよう努力していくことを忘れてはいけません。



パソコン指導中

チェックリストと課題分析

ここからは、社会生活のためのチェックリストと取り組み事例を紹介します。

大人が社会で生活していて、知らず知らずのうちにやっている習慣やルールは数多くあります。

これらは、ある日いきなりできるようになったのではなく、周囲の様子を見て覚えたり、自分がされて嫌なことはしなくなったり、注意されたり、少しずつ習得していったのではないのでしょうか。

障がい児の場合、障がいがあるという理由で、周囲が先回りして援助してしまうことが多いはずです。

しかし、ここでは、将来の社会参加や就労のために、社会で必要とされていることについてチャレンジする機会を作っていこう、チャレンジするための工夫をしよう、という提案です。

身近な支援者のほうが、より本人に合った工夫を見つけられると思います。

よい取り組みを開発されることを期待しています。

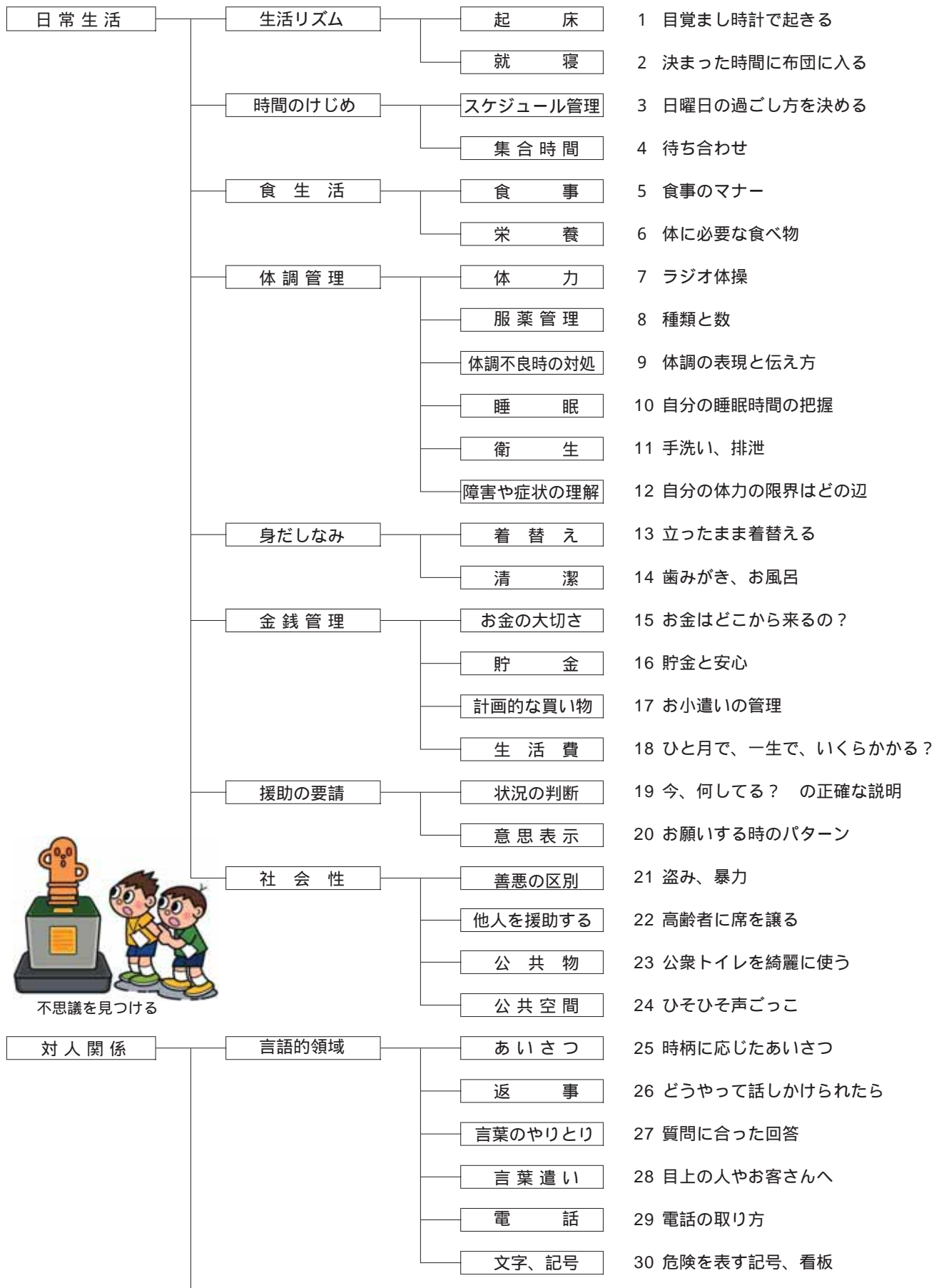
チェックリスト作成の参考にしたもの

障害者職業総合センター「就労移行支援のためのチェックリスト」

沖縄県教育委員会「進路指導の手引き」

チェックリストと課題分析

(日常生活でのテーマ例)



不思議を見つける



コミュニケーション	人との関わり	31 知らない人とも接する
	人間関係	32 誰にほめられると嬉しい?
	指示の理解	33 理解の確認方法
	協調性	34 ルールを決めて、交互に積木立て
	感情のコントロール	35 いろんな感情についての会話
	謝罪	36 何が原因で怒られるのか

働くための行動・態度	働く意欲	働く意味の理解	37 身近な「働く」を見つける
		働く意欲	38 達成感
		就労能力の自覚	39 自分の成長を確認する
	職場のマナー	報告・連絡・相談	40 今日学校であったこと
		上下関係、接客	41 対人関係の区別
	態度	責任感	42 約束したことを守る
		持続力・集中力	43 1つのことに意識を向ける
		我慢強さ、打たれ強さ	44 おやつを1個我慢
	作業効率	作業速度	45 片付け時間を測ってみよう
		作業の正確性	46 細かいところに気付く
	知識	危険回避	47 予測と予防
		労働福祉的知識	48 最低賃金で何買える?
		環境変化への対応	49 いろんな場所に慣れる

社会生活のための	数量的領域	数と量	50 好きな食べ物
		時計	51 12時は何の時間?
		カレンダー	52 印を付ける
		お金	53 お金の種類と大きさ、買えるもの
	行動範囲を広げる	交通機関の利用	54 路線バスで登下校
	暮らしの技術	安全	55 怪我しそうな行動や場所
		美化	56 きれいになって嬉しい
		調理	57 献立に必要な材料
		家事	58 掃除の手順
		買い物	59 スーパーでの買い物
	社会生活のモチベーション	余暇の利用	60 趣味をさがす
	役割分担	係、当番	



1 起床（自分で起きる）



チェックリスト	
起床	<ul style="list-style-type: none"> ・決まった時間に寝る（×） ・夜更かしをする（ ） ・決まった時間に起きられる（×） ・家族の援助が必要である（ ） ・目覚まし時計を使う（ ） ・家族に起こしてもらおう（ ）

課題 決まった時間に寝れない
決まった時間に起きれない

なぜ寝れないか？ 家族と一緒に寝たい
なぜ起きれないか？ 寝る時間が遅いから？

目標 決まった時間に寝る、起きる

内容 規則正しい生活の大事さを理解する
（一日の生活の流れを理解する）

方法 まず決まった時間に寝ることから
家族全員で相談をする
テレビを観る時間を決める
家族が協力して消灯の時間を決める
起きる時間に目覚まし時計をセットする
絵本や本を読んであげる
部屋の雰囲気、寝やすい環境をつくる



寝る、起きる、の課題分析（手順）	
<就床>	布団をしく 目覚ましの時間を合わせる 06:30 電気を消し床に着く（家族も一緒に）
<起床>	目覚ましで起きる（好きな音楽を流す） 窓のカーテンをあける 布団をあげる 着替える、脱いだ服はたたむ（洗濯に出す）



5 食事マナー（1）



チェックリスト	
食事	<ul style="list-style-type: none"> こぼさないで食べる（×） 人のものに手を出さない（ ） 箸を使って食べる（ ） 食べ終わるまで席を離れない（ ） 自分の食器がわかっている（ ） 食事の準備ができる（ ） テーブルを片付けることができる（×） 食べる時間が遅い（ ） 姿勢を正しく食べられる（×） 弁当の包みをあけられる（×）

課題 箸が上手につかえない
どんな訓練？
箸で挟む訓練？
食事時間中の訓練だけで可能か？

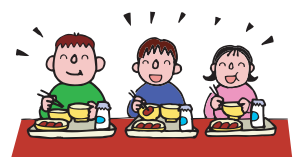
目標 箸が上手に使えるようになりたい

日常 学校の昼食と家族の夕食時に訓練
（ストレスをためないように注意）

内容 遊びの中で訓練
箸を使うこと（挟むこと）に興味をもつ遊び

準備 スポンジ、おやつのお菓子（マシュマロ）、
大豆10個～20個
皿2枚
箸（挟みやすいもの）

方法 1cm角に切ったスポンジを挟む練習
おやつにマシュマロ等を箸で食べる
皿に入った大豆をもう一枚の皿に移す
豆の数を増やす
興味を示すものを使って練習



5 食事のマナー（2）

項目	チェックリスト
食べ物	いただきます、を言う（ ） 周囲が食べ始めるまで待てる（×） 口を閉じて食べる（×） 音をたてないで食べる（×） 喋りながら食べる（ ） 食事中に席を立てて他のことをする（ ） 人のものを取る（ ） 食事のペースを周囲に合わせられる（ ） ごちそうさま、を言う（ ）

表面化した課題	支援すべき事項
周囲が食べ始めるまで待てない	「一緒にいただきます言おう」と毎回誘う
口を閉じない、音をたてる、喋りながら	周囲の人が口を閉じて食べていることを教える。「口を閉じてください」「音をたてないでください」とお願いする。やってくれたら「ありがとう。こっちがいいね」とほめる
人のものを取る	なぜ、それが欲しいのかを聞く。 自分もそれが欲しいので、取られたくないことを伝える

大人になったら、忘年会など、みんなで食事するよ。人に迷惑かける食べ方していない？



6 体に必要な食べ物

項目	チェックリスト
食べ物	好き嫌いがある（ ） 栄養素がわかる（×） 食べ物を区別できる（ ） 食欲がある（×） 体の構成を知っている（ ） それぞれの内臓や血液の働きを知っている（×） 風邪をひきやすい（ ） 食事に興味がない（ ）

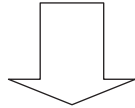
表面化した課題	支援すべき事項
好き嫌いがある	嫌いな食べ物と同じ栄養で、代わりに食べられる物を探す
内臓や血液の働きと栄養の関係がわからない	自分の体調と直接関係のある食べ物の話をする。尿や便、口内炎などの、直接体に表れる変化をチェックする
食事に興味がない	口にすることは、1つ1つ材料を確認して食べていく 外食の時に、自分で食べたいものを選んでもらう 好きな食べ物の、成分や材料を調べる

大人で、カップラーメンばかり食べてる人がいるよ。元気も出ないし、働けないよ。



11 排せつのプログラム

項目	チェックリスト
排泄	トイレで用を足すことができる () ウエストのゴム部分の上げ下げできる (×) ズボンのファスナーを上げ下げできる (×) 下着やズボンを汚さないでできる (?) 便器の周辺を汚さないでできる (×) トイレト紙がうまく使える (×) ノックができる (×) 戸に鍵をかけることができる (×)



トイレの、課題分析 (手順)
尿意や便意を感じるとトイレに行く ドアをノックする 便器を汚さないで使う トイレト紙を使って拭く 終わったあと流す 服装を整える ドアを閉める 手を洗う



表面化した課題	支援すべき事項
トイレの入口でズボンとパンツを全部脱ぐ (大人が公共空間で行うと犯罪になってしまう) トイレト紙を上手に使えない 入浴時にお尻の穴の位置を確認しよう パンツ、ズボンをはくが服装が整えられない 手を洗わない	    

11 手洗い

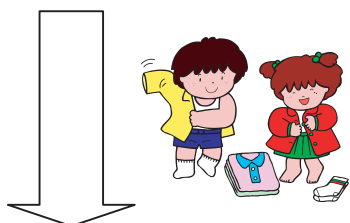
	チェックリスト
手洗い	洗面所に行く () 水道の栓をまわし水を出す () 手に流水をかける () 石鹸をつける () 指を開いて手のひらを擦りあわせる (×) 左手の甲を右手のひらでこする (×) 右手の甲を左手のひらでこする (×) 流水で手のひらを擦りあわせる (×) 左手の甲を右手のひらでこする (×) 右手の甲を左手のひらでこする (×) 手全体を流水ですすぐ () 流水で水道の栓を洗う (×) 水道の栓を閉める () 手を振って水を切る () ハンカチを出して手を拭く () ハンカチをしまう ()

課題	手のひらだけをこする 手の甲と指と指の間を擦れない
目標	手が洗えるようになる 病気の予防になることを学ぶ
内容	洗う時間の理解と手順
いつ	食前、トイレの後、遊びの後、外出の後 一週間程度集中支援で習慣化
方法	遊びや歌で練習する 正しい手順のビデオをつくる 支援者と一緒にやる 支援者は声掛けと手順の方法を共通に



13 着替え

項目	チェックリスト
着替え (パンツ・ズボン)	<ul style="list-style-type: none"> ・前・後ろがわかる (×) ・立って着替えができる (×)



ズボンをはく、の課題分析	
両手でパンツをもち前後の確認をする	パンツに右足を膝までとおす
パンツに左足を膝までとおす	左右どちらでもよい
両手で左右の端をもって腰まで上げる	バランスよくととのえる

表面化した課題	支援すべき事項
前後の確認をしない	<p>パンツの前部分に印をつける (小さなリボンや赤色の糸など) 言語指示で説明を</p> <p>立ってパンツを履く (ぐらつく場合、手すりなるものを準備する) 言語指示とモデリング</p>
場所に関係なく座ってパンツに足をとおす (食品会社に勤めたとして、床に座って制服に着替えたら衛生上問題あり)	カガミの前で左右のバランスを整える 言語指示とモデリング
両足を通したあとパンツを腰まであげるが、左側が下がっている	

15 お金はどこから来るの？

項目	チェックリスト
お金	<ul style="list-style-type: none"> コインの種類、札の種類がわかる () だいたいの物価がわかる (×) 店によって値段が違うことを知っている () 働いたらお金が得られることを知っている (×) お金の大切さ (?)

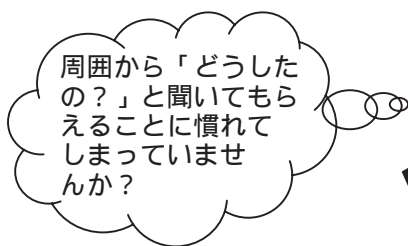
表面化した課題	支援すべき事項
物価がわからない	<p>お金が必要なものは何か探す ハード、ソフトへのお金 実際にお店に行って1,000円で買える物を探してみる カラオケで1,000円分歌う</p>
お金と労働の関係を知らない	<p>家庭の中に簡単な経済のしくみがんばってお手伝いして得たお金を大切に使う おこずかいで、計画的に買い物</p>
お金の大切さ	<p>貯金箱で貯金をする 貯まったら一緒に好きなものを買う。楽しいことをする</p>

就労支援の現場では
お金のトラブルも発生しています。



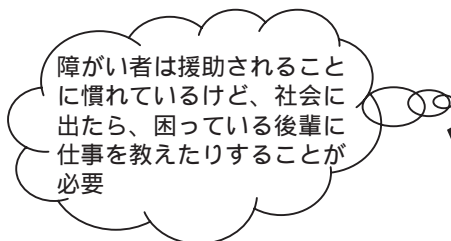
20 援助の要請

項目	チェックリスト	表面化した課題	支援すべき事項
援助	1人での外出経験ある(×) 知らない人と接するのを嫌がる() どんな時に援助するのか想定できない() 敬語を使える() 状況の判断ができる(×)	街を歩く人がすべて怖い人に見える 知らない人に援助を求めたことがない 外出先で怖い目に遭ったことがある お願いする時の表現がわからない。声がでない	まずは、おまわりさんや、店員などの、役割のある人に声をかける練習をする 援助してもらわないといけない状況を作る(場数を踏むため) モノレールに1人で乗ってみる(終点で保護者が待つ) 一緒について、大丈夫そうな人を選んであげる よく使う表現のパターンを用意する。言葉が出ない場合は、カードを使うなど



22 他人を援助する

項目	チェックリスト	表面化した課題	支援すべき事項
援助	高齢者に席をゆずる(×) エレベーターで先に人を降ろしてあげる() 子どもの代わりにボタンを押してあげる(×) 後から来る人のために、ドアを押えてあげてあげる(×) 荷物の多い人から、先にバスを降りてもらう()	周囲の困っている人に気付かない モデルがない 援助のモチベーションがない	絵本や雑誌を使って、誰が何しているところか当てっこする自分が困った時の事例を話し合う 保護者がまずドアを押さえてあげてやることをやってみて、次は、真似してもらう 保護者は、やってもらったときは必ず「ありがとう」をいう(感謝されて嬉しいという気持ち)



25 家庭でのあいさつ

チェックリスト

- 「おはよう（ございます）」が言える（ ）
 「おやすみなさい」が言える（ ）
 「いただきます」「ごちそうさま（でした）」が言える（ ）
 「（～に）行ってきます」「ただいま（帰りました）」が言える（ ）
 「行ってらっしゃい（ませ）」が言える（ ）
 「ありがとう（ございます）」が言える（×）
 「失礼します（しました）」が言える（×）
 「ごめんなさい」が言える（ ）
 「すみません」が言える（×）
 「お疲れさまです（でした）」が言える（×）
 「お願いします」が言える（×）

「ありがとう（ございます）」の場面

自分の仕事（役割）を手伝ってもらったとき
 必要なものを取ってもらったり、探してもらったとき
 欲しいものを頂いたとき
 人に親切にしてもらったとき

課題 「ありがとう」をいう場面が理解できていない

目標 素直に「ありがとう」が言える

内容 「ありがとう」という場面を意図的につくる。家庭や学校、児童デイサービスで同様な場面を共有する

方法 家族で意図的に物をとってと依頼する場面をつくる
 食事時間に「しょうゆをとってください」「小皿をとってください」等、常に頼む側が「ありがとう」をいう
 特に子ども本人に依頼する場面をつくり顔をみながら「ありがとう」をいおう

40 報告・連絡・相談

項目	チェックリスト
ほうれんそう	お手伝いが終わったら報告する（ ） 電話の伝言を伝えることができる（×） 報告の内容が、5W1Hを押さえている（×） 困ったことを相談してきたことがある（ ）

5W1Hとは

Who（誰が）、What（何を）、When（いつ）、Where（どこで）、Why（なぜ）、How（どうやって）、How Much（いくらで）

仕事では、ほうれんそう（報告・連絡・相談）は基本。
 これが苦手で、トラブルになるケースも。



表面化した課題

5W1Hに慣れていない

伝言を伝えられない

ほうれんそうの機会が少ない

支援すべき事項

本人を主語にして、カードで5W1Hをいろいろ使って言葉遊びする

誰からですか？何時に電話ありましたか？私は何をしたらいいのですか？と確認する

学校であったことを、毎日、ほうれんそう（報告・連絡・相談）してみる
 保護者からも本人に相談してみる（相談する人に接したことがないのでは？）



41 対人関係の区別

項目	チェックリスト
対人関係	敬語が使える(×) 自分の周囲の人と、知らない人との距離感がわかる(×) 他人に個人的な質問をしない(×) 初対面の人には、さん付けで人を呼ぶ() かまってほしいがる() 叱られたらすぐ泣く()

表面化した課題	支援すべき事項
多くの人間関係に触れていない (保護者と先生のみ。みな身近な支援者・理解者) 敬語が使えない 人に頼りすぎる	自分を取り巻く人間関係図マップを作成する。 近所の人や、よく行く店の店員等 買い物やレストランに行き、店員の喋る丁寧な言葉に注意を向ける(まねするとか) テレビドラマを見て、上司部下ごっこ 一人で買い物をするなど、直接他人と触れる機会を作る 他人からも話しかけてもらう

会社の上司は支援者ではありません。また、仕事のお客さんは友達ではありません。



54 路線バス利用の登下校のプログラム

項目	チェックリスト
交通機関の利用	路線バスが利用できる(×) 料金を支払うことができる(×) タクシーが利用できる(×) 自転車を安全に運転できる(×)



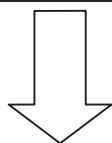
路線バスの利用の手順

家からバス停までいく
 バス停で並んで待つ
 乗るバスが来たら手を挙げる
 乗車口から順番に乗る
 整理券をとる
 空いた席に座る
 下車する停留所が近づいたら押しボタンを押す
 停車したら整理券とお金を料金箱に入れる
 「ありがとうございました」とあいさつをする
 左右を確認してから降りる
 バス停から学校まで行く


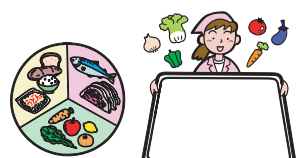
表面化した課題	支援すべき事項
横断歩道を渡るとき左右を確認しない(ルール) 乗るバスが選べない 並んでいる順序に関係なく乗る(ルールとマナー) 整理券をなくすことがある お金の計算ができない 下車するバス停と押しボタンを押すタイミングがずれてしまう 左右を確認しないで降りる	同行してルールを教える。家から母親、学校から先生 バスの番号と番号の書かれた絵カードを使う 並んでいる順番どおり乗ることを指導する 財布の中に入れる習慣 財布の中にちょうどの金額だけを入れる バスのアナウンスを録音して押しボタンのタイミングを練習する 降りる直前に「左、右、左」を声に出して確認する癖をつける

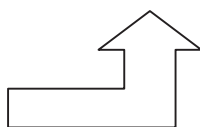
59 スーパーでの買い物

項目	チェックリスト
買い物	スーパーやコンビニに行ける () 買いたいものを選べる (×) お金の支払いができる (×) 自動販売機が使える ()



買い物の、課題分析
家からスーパーまでいく カゴをもつ 品物を選んでカゴに入れる レジの前に順番よく並ぶ お金を払う レシートとつり銭を受け取る 買い物袋に入れる カゴを元の位置に戻す スーパーから家まで行く 頼まれた相手に報告をする

表面化した課題	支援すべき事項
無作為に品物を選ぶ 	買うものを事前に写真や実物で見せる 
レジの前に行かず、品物を袋に詰めようとする	同行して、毎回支払いしていることを見せて確認する
お金を計算できない	レジ係に援助をお願いする
買い物カゴを戻さない	カゴを戻すことは楽しいゲームにする



その他にも.....

社会人は、普段、どのような生活を送っているでしょうか。

- 新聞を読む
- 図書館で本を借りる
- 社交辞令を言う
- 同好会やサークル活動をする
- ボランティア活動をする
- ダイエットをする
- 動物を飼う
- 映画を観る
- 旅行をする
- 電話で問い合わせをする.....etc.

社会生活での習慣やルールはたくさんあります。社会参加が最終的なゴールだと考えると、社会を基準に知識や習慣を合わせる必要があります。

やりたいことを見つけて、生活の場を広げてみませんか。

私の挑戦

保護者 宮城 美幸

私は平成元年3月、38週で長男を帝王切開で出産しました。長男は殆ど産声ともおぼつかない声でこの世に誕生しました。ただ我が家では念願の長男誕生に家族中が喜びに包まれてました。誕生して2、3日が経ち、母が目を開けない長男に異変を感じ眼科医が診察。病名は先天性小眼球。しかし、医師に手術をしても駄目だと言われようが諦めきれず「手術をすれば見えるかもしれない」との一縷の望みを持ち病院を転々としてました。診察の度に滅多に泣かない長男が泣き叫ぶ声を聞きながら、それでも目が見えるようになるならと自分の感情を押し殺すしか術のない自分に腹立たしく感じる毎日でした。



そんなある日、保健所で一歳児検診を受けました。そこで小児発達センターの落合先生を紹介されたのです。長男は足が突っ張り、うまく屈伸ができないのです。1歳をすぎた頃です。先生は長男の足を屈伸させながら「この子は歩けるようになるよ」と話しながら、沖縄盲学校の教師を紹介してくれました。

その頃の私は医学の無力さと将来的に一生、親の顔も世の中も見ることのできない息子の前途に絶望していました。盲学校の先生を紹介されても気が進みませんでした。ただ、初めての出産で全盲の息子をどう育てていけばいいのか悩みあぐねていたのは確かでした。

盲学校の門をくぐったのはうりずんの風が心地よい季節でした。小学部の玄関先を竹藪で掃いている方に「山城先生にお会いしたいのですが」とその方に尋ねると「私が山城です。まあ、かわいい赤ちゃんね」と息子を抱きかかえ、あやす先生に私はとても安心したのを今でも覚えています。

「幸せの扉がひとつ閉じる時、新しい扉がまたひとつ開くのです。それな

のに、しばしば私たちは、閉じられた扉を長く見つめすぎて、私たちに向かって開かれている扉を見ないのです」とは三重苦のヘレン・ケラー女史の言葉です。

私が長男の子育てに真剣になれたのは山城先生との出会いからです。先生は子育てに悩み弱気になる私を叱咤し、また励ましながら私と同じ目線で指導してくださいました。お陰で息子は3歳でつかまり立ちができ、少しずつ歩行できるようになりました。

その間、同じ視覚に障がいを持つ保護者が6人になっていました。同じ悩みの子どもを持つ母親たちは、盲学校で成長していく子どもたちを励みに団結していきました。

瞬く間に時は過ぎるもので小学部の高学年になるとこの子たちの将来を見据えた進路の話を先生から言われるようになりました。現実、この子達がつける職業があんま・針・灸の三療士の他に何があるのか教えて欲しいのは私たち親の方です。ましてや視覚の他にも障害を持つ重復の子ども達に何が出来るのでしょうか。

息子が中学部3年の2月の事です。インターネットで検索した資料を手に盲学校の先生から京都に「アイアイハウス」という視覚障がいの作業所があるので一緒に見学に行きましょうと誘われました。「視覚障がいの作業所？」始めは何の事か分からず戸惑っている私を後押ししてくれたのは教頭先生でした。2泊3日の日程で、私の他に保護者1人と教師3人の5人は不安と希望を胸に京都へと旅立ちました。

アイアイハウスではパン作り、牛乳パックから葉書、便せんの作成・和紙の封筒の作成、梅干し漬けやその他色々、自分でできる作業を盲の重復の所員が指導員に手伝ってもらいながら、作業を行ってました。また、母親たちに作業所の立ち上げについても話を聞く事ができました。

「とにかく資金とか、考える前に行動を起こすことが大事だ」とのアドバイスを貰い、沖縄に帰って来た5人は

まず、「つくる会」を立ち上げ、試行錯誤しながらもとうとう2003年5月に「視覚障がい者療育作業所・てんてん」を開所することが出来ました。

あえて「療育作業所」としたのは他の作業所と違い、視覚に障がいをもった者たちができる作業に重点を置くのではなく、身辺自立に重点を置く作業所であることを明示したかったからです。

立ち上げから4年、作業所運営費など課題は沢山あるものの現在まで頑張ってきたのも多くの支援者の皆様のお陰です。私はこの視覚障がい者療育作業所てんてんを通して沢山のことを学ぶ事ができました。



巷ではよく「生きる力」ということが言われますが障害児教育には早くからこのことが意識され、取り組むことが大事であることを私は長男を通して実感しています。有名なヘレン・ケラー女史の言葉に「障がいは、不自由ではあっても、決して不幸ではない」とあります。

また立正大学の堺先生は「子どもの成長のためには親の成長が必要です。どんな親でも最初から『子どものすべてを受け入れて...』とうまくできるわけはありません。だからこそ、時間をかけ子どもとともに成長することが大切なのです。障がいのあるなしにかかわらず、親は子育てに悩むものだと思います。しかし、その中で我が子の良い所を見つけられる親になって欲しいと思います」と。

最後に、作業所を立ち上げたとはいえ、視覚障がい者に何が出来るかまだまだ手探り状態で、私たち親子の挑戦は続きます。しかし目の前の「人生の新しい扉」を見えない、駄目だと決めつけることなくこれからも諦めず取り組んでいきたいと思います。

3 . 将来の道しるべ 職業生活など

実際、就職するとなると、どのようなことが起こるのでしょうか？
就職活動では、どのようなことをするのでしょうか？

ここでは就労の現場にいる、企業や支援者の声を紹介します。
また、働いて充実した日常を送っている当事者にも作文を書いてもらっています。
実際は明るい話題だけではありません。関係機関は、課題を克服しようとする方達の支援も行っています。
就職してからも、保護者の応援が不可欠です。

ある就労支援者の言葉

「福祉的な支援では、その人が少しでも今より成長することを目標にする。就労支援では、企業が求める人材というゴールに向かって支援する。」

企業アンケート 結果より

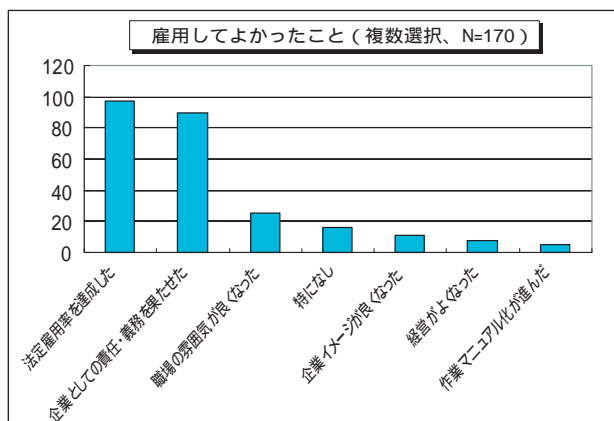
アンケート調査概要

【目的】企業が求める人材像と、企業における雇用管理と定着課題について調査する。また就労支援機関や保護者への意見を聞く。
【対象】障がい者を雇用している企業
【規模】173社
【調査時期】平成19年10月

Q1 障がい者を雇用して、よかったことはありますか？

雇用してよかったことは、「法定雇用率を達成した」「企業としての責任・義務を果たせた」が多くなっていますが、それ以外では、「職場の雰囲気がよくなった」「企業イメージがよくなった」「経営がよくなった」との声もあがっています。雇用が会社にとってプラスになっている事例です。

一方で、企業は仕事や収入がないと人を雇用できません。障がい者を雇用するときは、環境整備にかかる費用や雇用することによる生産量など、企業経営にとってプラスになるように、真剣に計算しています。

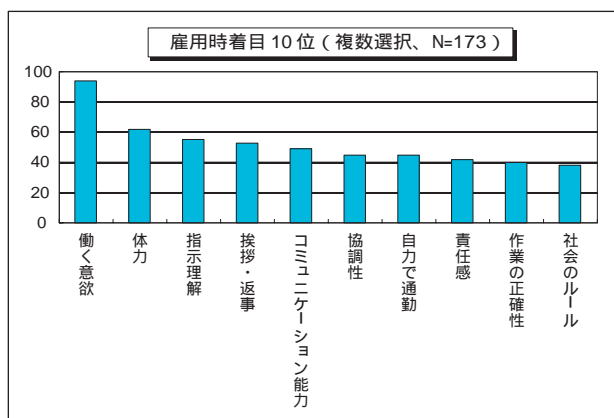


H19.10 沖縄県雇用労政課 雇用企業調査

Q2 企業は、障がい者に何を求めていますか？ 採用する際の着目点。

即戦力や資格よりも、企業は、まずは、「働く意欲」を最も求めています。意欲があれば、新しい仕事もチャレンジしよう、とがんばるし、もっと上手にできるようになるという向上心にもつながります。また、意欲があれば、毎日朝早く起きて通勤することも苦痛ではありません。

企業からの声では、「面接で志望動機を聞いたから、親と先生に言われたから、と回答されてしまった」、「なぜ働くのかを考えてほしい」、「社会に出る前に働く喜び、働く意味を理解する必要がある」、「作業はもくもくとこなすが、作業を仕上げた時の達成感を感じていないようだ」などの指摘がありました。

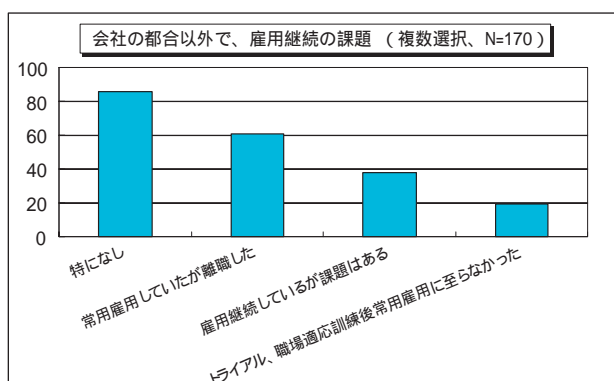


H19.10 沖縄県雇用労政課 雇用企業調査

Q3 雇用継続の課題はありますか？

会社の都合以外で雇用継続の課題があるかどうかについては、約50%の企業では問題は特にないようですが、36%の企業で「離職した」、22%の企業で「雇用は続いているが課題はある」、11%の企業で「雇用支援制度を使ったけど雇用に至らなかった（採用しなかった）」となっています。

単純に計算すると、3社に1社では障がい者が離職し、5社に1社で課題を抱えており、10社に1社でマッチングに失敗していることとなります。

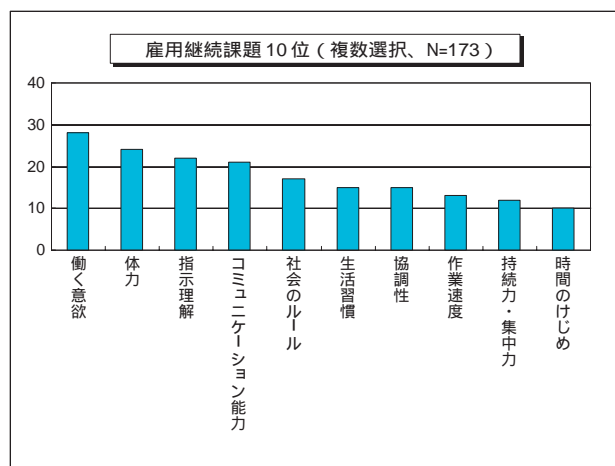


H19.10 沖縄県雇用労政課 雇用企業調査

Q 4 雇用継続に関して、具体的に何が課題となっていますか？

具体的に何が雇用の課題になっているかというと、採用時に最も着目されている「働く意欲」が、ここで1位になっています。他には、体力、指示理解、コミュニケーション能力や、社会のルール、生活習慣、時間のけじめ等もあげられています。

企業からの声では、「夜遊びで朝起きれず、出勤できなくなってしまった」、「説明した時はわかりました、と言うが、実際はわかっていなくてトラブルになる」、「質問したり報告・連絡・相談の癖がついていない」、「注意したら次の日から来なくなった」など。業務よりも、むしろ生活習慣やコミュニケーションが課題になっていることがわかります。



H19.10 沖縄県雇用労政課 雇用企業調査

その他、障がい者雇用企業アンケートから自由意見を抜粋

私たちが障がい者を知るきっかけにつながった。

本人のがんばる姿が他の社員のやる気を引き出した。

社員教育とはどうあるべきかをあらためて考える事ができた。

特別扱いなどせず毎月の職員会に参加させ責任感を持ってもらったことが継続につながったと思います。

家族とのコミュニケーション。職場に来てもらう、家族に電話する等して会社を知ってもらうことが大事。

支援機関やご両親に「させられてる」という思いが強いので作業レベルで低下する一方である。

全従業員が声をかけ、仕事以外の会合とかにも参加させる事で社員としての自覚がより強くなったように思う。

雇用するにあたり、彼らを管理する役割を担う人が必要になってくる。その分経費もかかってくる。コストをかけない工夫、対応が必要になってくるのでは。

物作り等の意味を十分理解させる事、世の中の向上に役立っているんだよと喜びを感じさせる事。

どうして社会に出たら働かないといけないのか、働く意味を教えて欲しい。学校の延長という意識が多い。

自立のためになにが必要なのか、できていないことをどのようにしたらできるようになるのか。

障害者本人だけではどうにも出来ない事もあり、家族や支援機関の協力はとても必要と感じる。

障がい者に対する社員の思いやり、又、本人の働くことに対する意欲の大切さ。

学校や家庭で社会のルールの指導を十分に行ってほしい。

社会人として基本的な心がまえについてくり返し訓練していただきたい。

自覚とやりがいを見いだせる事前学習をお願いします。自分のやってる仕事を通して、社会のどこにつながっているのか。

我慢強さ、打たれ強さが必要不可欠。

保護者は、本人の自由意思のままにさせてしまったり、自力通勤できるのにさせてなかったり、お金の管理をさせなかったり、過保護にならないよう。本人が成長できるようにしてほしい。社会人に育てる意識をもってほしい。本人が働く喜びを持っていないのでは？

家庭での親とのトラブルは、その日の作業に影響が大きく、問題が発生する。



職業生活の楽しみ（余暇活動など）

南部障害者就業・生活支援センター 宮城 智子

何のために働く？

大人になって、就職できて、いざ給料を手にした途端、思う存分好きなことができると思います。しかし、一晩でカラオケやお酒で使ってしまった、あとは何も残らない、という話も聞こえてきます。

他には、給料は保護者に預けて自由に使えるお金がなく、本人は家と仕事の往復だけで、土日は家で何もせずテレビを見ている、というような話も聞いたことがあります。

ただ単に働いてお金を得るということではなく、働くことを通して生きることを楽しむ、ということについて、考えてみたいと思います。

事例1 ストレス発散としての余暇活動

職場では特別扱いされ腫れ物に触るようにされ、日常生活でも友達がいなかった方。

ストレスを発散するところがなく、イライラを毎日家族にぶつけて、土日は部屋へこもっていました。

そこで、ボーリングやカラオケ大会、新年会などを開いている会に参加することになりました。行事の参加だけではなく、日常的につきあえる仲間もできました。すると、仕事の悩みの相談ができ、仕事や私生活でもうまくいっています。

事例2 体力づくりと余暇活動

就職しても、体調を崩しがちで仕事も休みがちだった方。

家でもずっとこもっていることを心配した保護者と相談して、子どもの頃に習っていた空手道場に通うことに。毎週数日間、定期的に通うことで、生活にリズムもでき、また体力もついて、仕事を休むことがなくなりました。

事例3 仲間と楽しむ、友達を作る

相談できる友達がいるかいないかも、職業生活の安定に関わってきます。那覇市古島にある南部障害者就業生活支援センター「群星」では、毎週水曜日に就職者のためのたまり場を設けています（H19.11現在休止中）。

活動といっても、具体的に何かイベントをするわけでもなく、お互いにパソコンを教えあったり、おしゃべりをしてお互いの悩みや近況を話しています。そのような活動を通して、仕事のストレスをコントロールし、仕事しながら生活を楽しむことを得ているのだと思います。

注意点 仕事と遊びの区別

ただし、楽しいことが見つかったとしても、仕事と遊びは区別しなければなりません。カラオケに行きたくて勤務中そわそわしたり、友達とメールしたくて勤務中も携帯電話に気を取られたりする事例も、あがっています。

さいごに

社会に出るまでは、接する人は、同じ障がいの友達や、先生や、保護者だけでした。しかし社会に出ると、職場の人やお客様など、いろんな人と接しなくてはなりません。また、仕事は甘えが許されません。慣れない職業生活でストレスがたまることも多いでしょう。

また、社会に出ると、ギャンブル、性風俗、宗教、消費者金融など、今まで接点がなかったものを目にする機会ができます。趣味や楽しみがない場合、極端な刺激にのめり込んでしまうこともあります。

ただ単に働くということではなく、社会の中で生きていて楽しい、と思えることが、働くモチベーションになるのではないのでしょうか。子どもの頃から、社会の中で趣味や楽しみを見つけておくことが、豊かな職業生活を送る準備になると言えるかもしれません。

困ったときこそなんくるないさ～

下地 隆宏



【はじめに】

皆さん初めまして！沖縄県庁に勤務している下地と申します。うちなーんちゅらしく「なんくるないさぁ～」を日々モットーにしている私ですが、これまでの生い立ちや私が持つ障がい、今の仕事などについて駄文ながら、皆様の参考になるようまとめてみたいと思います。

【障害について】

私は生まれつき聴覚障害と言語障害を持っています。聴覚については両耳とも感音性難聴と伝音性難聴を併せ持ついわゆるミックス難聴のため、聴力はほぼ皆無に近く、音声認識能力も殆ど機能していません。

また、言語障害については6歳まで過ごした沖縄県立沖縄ろう学校での日本語習得や発声訓練、読唇術習得のおかげでごく簡単な会話はできるようになりましたが、それでも人並みに話すことはできません。以上が私が持つ障がい、これまでに両方とも仲良く付き合ってきています。

【この仕事を選んだ理由】

時を遡ること10年前の大学生時代に講義の一環である企業実習で糸満市福祉事務所に二週間お世話になったのですが、その時の体験から「地方公務員って社会にも貢献してるし、仕事も幅広くて何かと面白そう！」という気持ちが芽生えました。

そして、大学卒業直前の就職活動時、たまたま手にとった新聞で沖縄県が「身体障害者を対象とした沖縄県職員採用選考試験」を実施することを知り、「これは公務員になるまたとないチャンス！」と一念発起して受験してみたところ、無事に合格。こうして晴れて平成12年に採用され、足掛かり8年でこれま

でに4つの職場を渡り歩いてきました。【現在の仕事～楽しいこと・困ったこと～】

現在は沖縄県知事公室広報課というところで働いています。そんな私の担当業務は沖縄県ホームページ等の管理運営がメインなのですが、仕事柄いろんな方と知り合いになる機会が多く、今ではその事がちょっとした楽しみのひとつになっています。

ただ、障がいとうまく付き合っているつもりでも、時にはその障がいが、いろんな場面で足を引っ張ったりすることもあります。

私の場合、ある程度の声が出せるということが逆に災いして相手から「声が出せるんだし、ひょっとして耳も聞こえるんじゃない？」と誤解され、健常者と同じように対応されて非常に困ったりすることも頻繁にあります。

また、相手の声が聞こえない私は相手と会話するときは唇の動きを目で追って相手が何を言っているのかを読み取る読唇術に頼っていますが、この読唇術も完全なものではなく（例：卵、煙草、なまこは口の動かし方が同じなので、読み間違いが生じることもあり、また唇の開け閉めがはっきりしないと全く機能しない）、仕事での調整中、相手の会話内容がわからず、何度も聞き返したりして相手に迷惑をかける場合もあるほか、職場の同僚や先輩に代わりに電話をお願いすることに非常に気を使うといったことや職場内の会議やアフターファイブでの会話に全くついていけなくて寂しい思いをするという問題もあります。

【解決方法】

採用されたばかりの頃は重要な事を聞き逃したことによる仕事のミスもあって、会話の輪の中に入れず疎外感を感じたりといったことで、全てにおいてコミュニケーション問題で非常に悩んだこともありましたが、「ウジウジ悩んでも仕方がない」と気持ちを切り替え、「自分ができることは自分の力でちゃんと頑張るが、障がいのためにできないことは障がいのことを説明

した上で誰にでもなりふり構わず協力をお願いしちゃえ！」という行動に変えたところ、意外に思うほど周囲の皆さんが協力してくれるようになり、気分的にも楽になって働きやすくなったと思っています。

結論として自分の障がいを気にすることなくオープンにして周囲の皆さんに理解してもらうようにし、時にはどんなことでも臆することなく大胆に行動すれば、困ったことがあっても結果的にうまくおさまってくれるような気がします。

【余暇生活について】

どんなことでも「面白そう」と思ったらすぐ深みにハマってしまう私は俗に言う典型的な“オタク”タイプです。趣味が多すぎて全てをご紹介することはできませんが、強いてひとつだけ挙げるとすればバイク。

日々「なんくるないさぁ～」を貫いてる私でも時には日常に疲れることもあったりします。その場合は休みの日に朝から愛車に跨って、ヤンバルの安田や楚洲まで一人で遠出しています。

バイクとの人馬一体感や風を身体全体で受けて走ること、ひとつひとつのコーナーをうまくクリアしたときのパァとした感覚はなんとも言えないもので、その爽快感が仕事の疲れをどこか遠くに連れていってくれるほどです。そして、ツーリング後の缶コーヒーの美味さもまた別格だったりします（笑）

私にとって趣味というものはライフスタイルの一部ですが、それがストレス解消にうまく繋がっていると思っています。

【最後に】

誰でも障がいを持って働く以上、いろんな場面で思うように働けないなどのもどかしさがありますが、結局は自分がどう動くかで自分や周囲、そして職場環境も変わってくるものだと思います。

また、仕事と併行してストレスを忘れるほど没頭できる趣味を持てば自分スタイルの働き方ができるのではないかと思います。お互いに働きやすい環境作りを目指して頑張りましょう！

就職するための支援機関



まず、就職までの流れは、簡単に言って、

- (1) 就職準備段階
- (2) 訓練・就職活動段階
- (3) 定着段階

の流れになります。

障がい者の就職活動では、(1)の就職準備段階でつまづいているケースも多く、学生の時や福祉サービス利用時の段階で、社会性や安定した生活習慣を習得しておくことが、就職への近道になります。

また、就職活動の前に、なぜ働きたいのか、働く生活はどのようなものなのか、どのくらいの厳しさが要求されるのか、を突き詰めて考える必要があります。働いている方から話を聞いたり、先生や支援者に相談してみたり、企業が求める人材について研究してみてください。

ハローワーク（公共職業安定所）



就職する決意が固まったら、次はハローワークです。ハローワークを通して、求職者は訓練や企業を紹介してもらったり、企業は支援制度を活用できるようになります。

ただし、制度等が複雑なので、最初は、就職の知識のある方が一緒に行くことをお勧めします。

ハローワークには、障がい者専用の職業相談窓口があります。



求人検索端末

初めて利用される方は、まず窓口で登録します。住所、学歴、職歴、希望職種、資格、障害種別、障害程度、生活保護の有無、家庭環境など、細かく確認していきます。

上のようなコンピューターで、一緒に企業を探していきます。企業の求人情報には、給料、雇用期間、雇用形態、加入保険、勤務場所、業務内容、必要資格、応募条件などが載っています。傾向として、企業はパソコンを使える方を求めているようです。

求職者が企業の求める条件に合わなくて、面接までたどり着けないことも多くあります。その場合は、次ページからの支援機関を紹介することがあります。

障害者職業センター

ハローワーク那覇の5階にあります。

職業評価や職業準備支援を行っています。また、カウンセラーやジョブコーチなどの専門家がいて、就職のための人材育成機関となっています。





右上の写真の部屋では、障害を有している人のうち、職業経験が浅くて離転職を繰り返す方や、職場の対人対応に課題を感じている方などを対象に、様々な作業を体験してもらい、「働く」イメージをつかんだり、職場のルール等を理解するための支援（作業支援）と、講義形式を中心として、就職全般に係る知識を体得してもらうための支援（職業準備講習カリキュラム）、さらには主に精神障害の方を中心に、対人技能の向上のための支援（精神障害者自立支援カリキュラム）を実施しています。

については、企業からの受注作業を通じて、自分で「得意な点」「苦手な点」をしっかりと把握するとともに、課題点については、必要に応じて企業に就職することを踏まえた改善の方策と一緒に検討していきます。については、職業に関する各種講座、グループミーティング、さらには実際の民間企業にご協力を頂いての職場実習等を通じて、職業人としての心構えを身につけることを目指します。については、ソーシャル・スキル・トレーニング等の手法を用いて、職場でのコミュニケーション方法の体得を中心に支援を行っていきます。（尚、を組み合わせることも可能です。）

さらに、障害者職業センターでは「ジョブコーチ支援事業」も行っています。ジョブコーチという専門家を企業現場に派遣し、障がい者1人1人の課題に応じた適応援助を行います。これは、すべてジョブコーチが代わりにやってくれるということではなく、障がい者が1人で作業をこなせるようになるための工夫を考えたり、企業の方に接し方のコツを教えたり、家族へ助言を行ってしています。

障害者就業・生活支援センター

訓練したら就職できそうだけど、生活習慣や家庭環境などの問題を抱えている、という方への支援機関です。

障害者就業・生活支援センターには、当事者だけではなく、福祉や教育の支援者も相談に訪れます。例えばケースワーカーの依頼に基づいて、職業訓練を紹介したり、実習先を紹介したりします。また、転職などにより住む家がなくなった時にも、グループホームを紹介します。また、企業から、採用した障がい者についての相談を受けたりします。

地域で働きたい障がい者、働いている障がい者が、円滑に職業生活を送れるように、様々な支援を行っている機関です。



【ハローワーク】

- | | | |
|-----|-----------------|-----------------|
| 那 覇 | 那覇市おもろまち 1-3-25 | 電話 098-866-8609 |
| 沖 縄 | 沖縄市住吉 1-23-1 | 電話 098-939-3200 |
| 名 護 | 名護市東江 4-3-12 | 電話 0980-52-2810 |
| 宮 古 | 宮古島市平良字下里 1020 | 電話 0980-72-3329 |
| 八重山 | 石垣市字登野城 55-4 | 電話 0980-82-2327 |

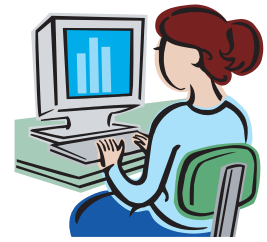
【沖縄障害者職業センター】

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 那覇市おもろまち 1-3-25 | 電話 098-861-1254 |
|-----------------|-----------------|

【障害者就業・生活支援センター】

- | | | |
|-----|---------------------|-----------------|
| 北 部 | 名護市字宇茂佐 943 | 電話 0980-54-8181 |
| 中 部 | 沖縄市山里 2-1-1 | 電話 098-931-1716 |
| 南 部 | 那覇市古島 12-1 ピュアパレス黒潮 | 電話 098-941-5008 |

職業訓練



1. 県内職業能力開発校（障害者職業訓練）

具志川職業能力開発校

（1）製図科（身体障害者コース）定員 10 名（1 年）

中小規模建築物における建築一般、構造、施工、設計、製図、測量、建築設計等の基礎的な知識の習得をはじめ、機械製図、建築CADソフト（2次元、3次元）を利用した設計製図及び、建築パース図等作成技術を習得します。

主な取得可能資格：建築CAD検定中～初級、トレース技能検定2～3級、ワープロ検定2～3級、表計算検定2～3級

（2）販売実務科（知的障害者コース）定員 10 名（6ヶ月）

スーパーマーケットや小売店等における商品管理、物流作業、接客等、関連する機器の基礎知識及び操作技能等の習得を目指す訓練を行います。

浦添職業能力開発校

（1）OA事務科（障害者コース）定員 10 名（1 年）

アプリケーションソフトによる表計算、文書処理、画像処理、ネットワーク利用、インターネット操作等並びに簿記、会計、一般事務の技能、知識を習得します。

主な取得可能資格：Excel、Word、Access 技能認定試験2～3級、ホームページ制作応力認定試験、簿記2～3級

2. 県外障害者職業能力開発校

国立職業リハビリテーションセンター（身体・精神・知的障害者）

（運営：（独）高齢・障害者雇用支援機構）

障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく「中央広域障害者職業センター」と職業能力開発促進法に基づく「中央障害者職業能力開発校」の2つの側面をもっています。

隣接する国立身体障害者リハビリテーションセンターとの密接な連携のもとに、障がいのある方々の自立に必要な職業指導や職業訓練などを体系的に提供する、我が国における職業リハビリテーションの先駆的实施機関です。

国立吉備高原職業リハビリテーションセンター（岡山県）

（運営：（独）高齢・障害者雇用支援機構）

入所の職業訓練施設で、全国各地に住んでいる方が利用できます。入所された方々に対して、職業適性等を理解・把握していただくための職業評価、就職に必要な技能、知識等を習得していただくための職業訓練（7つの科から成る）。

就職活動に必要な情報提供や指導を行う職業指導等、個々の特性・能力に応じたきめ細やかな総合的な職業リハビリテーションサービスを提供し、社会で活躍する職業人を目指した人材育成に努めています。

鹿児島障害者職業能力開発校（身体・知的障害者）

障がい者の方々に対して、その適性に合った職種について、時代のニーズに応えられる知識・技能を習得してもらい、職業人としての自立を支援するため、各種の職業訓練を実施する南九州唯一の国立県営の障害者職業能力開発校施設です。

3. 障害者委託訓練（県内）

障害者委託訓練は、障がいのある人の職業訓練のチャンスを大幅に拡大して、その雇用・就業を支援するために、平成16年度から全国で開始しています。

訓練コース（3ヶ月）

イ．知識・技能習得訓練コース（就職に必要な知識・技能の習得を得るためのコース）

カリキュラムの例（計300時間）

学科：147時間：社会生活指導、基礎学力、パソコン操作、職業準備訓練、グループワーク、体育、社会資源見学

実技：145時間：企業内実習

課外：8時間

ロ．実践能力習得訓練コース（就職に必要な実践的な職業能力の開発・向上を図るためのコース）

カリキュラムの例（計290時間）

学科：40時間：基礎学力講座、職業基礎講座、職業適応講座

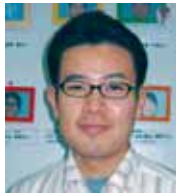
実技：245時間：工場内実習

課外：5時間

主な取得可能資格

委託先により異なる為、詳細はハローワークに設置した募集案内参照のこと。

支援員



委託訓練施設
NPO法人ミラソル会
東金城 彰一さん

職業リハビリテーションとは、職業を通じて社会参加し、自立出来るようにする為の訓練です。

ミラソルでは訓練生が元々持っている能力に着目して、それを社会の中で活かせるようにさらに伸ばしていく指導を行っています。また、ミラソルの委託訓練では、SST（社会生活技能訓練）や企業実習を中心としたカリキュラムによって、職場から求められる基本的な労働習慣だけではなく、コミュニケーション能力や社会生活における自己対処能力も身につけることが出来ます。また、訓練生1人ひとりに合った職場を開拓して、就職後も長く働き続けられるようにフォローアップしていきます。

【保護者の皆様に向けて】

チャレンジする前から諦めないで下さい。障害者職業訓練は自立する上での大きなチャンスです。

受講する前段階として家庭においても『元気に挨拶をする 自分の事は自分でする 時間を意識して行動する 失敗したら素直に謝る』といった最低限の社会マナーが出来るように習慣化させていて下さい。仕事は家庭の延長線上にあります。自ら考えて行動出来るようになるには時間がかかります。可能性を信じて「働きたい」という気持ちがあれば、最寄りのハローワークや支援機関・委託訓練先に御相談ください。

訓練生



委託訓練施設
社会福祉法人たまん
修了生
高山 拓さん

僕は、7月から9月までの3ヶ月間委託訓練を授産施設たまんで受けました。浦添からバスを乗り継いで、糸満まで行きました。早く起きるのが大変でした。

訓練ではいろんな事を勉強しました。挨拶のしかた、電話の取り方お金の管理などやりました。作業訓練もいろんな作業をしました。段ボールのボンド着け、お菓子の箱づくり、らっきょうの皮むき、古紙回収などやりました。たまんの利用者とも友達になり毎日楽しく作業ができました。

また、職場実習もやりました。初めの1週間は老人ホームでやりました。おじいちゃん、おばあちゃん達が方言ではなしするので分からないのがいっぱいありました。老人ホームでの仕事は大変でした。次の実習はとても楽しくできました。みんながやさしく教えてくれて実習に行くのが楽しかったです。1週間だけだったけど、また行きたいと思いました。委託訓練は3ヶ月間だったけど、もっと続けばいいのにと思いました。

（訓練終了後、企業にて職場実習）

就労移行支援事業

ひとりひとりの適性や希望などを考慮し、あいさつやマナーなどの基礎的な訓練から、面接などの練習、作業能力の向上、職場実習などを通して2年内の企業等への就職をめざします。

また、職業生活の支援を含め、就職後のフォローアップ（定着支援）が行われます。

【対象者】:

65歳未満の障害者

障害者手帳がない場合は、お住まいの市町村で確認

【利用方法】:

お住まいの市町村または近くの相談支援事業者（1）に相談し、市町村へ障害福祉サービスに係る公費の支給を申請します。その後、市町村の担当者等が、ご本人の生活状況や意向等を調査して公費支給を決定します。また、ご本人または保護者等が、就労移行支援事業所とサービス利用のための契約をします。

サービスの利用にあたっては料金が発生します。
（各種の軽減措置あり）

【支援体制】:

（就労移行支援事業所）

サービス管理責任者・就労支援員・職業指導員・生活支援員

ひとりひとりの適性や希望等に合った支援を行うため、就労移行支援事業所は、「個別支援計画（2）」をつくります。また、ハローワークや障害者就業・生活支援センター等の関係機関と連携して支援します。

体の具合や生活環境などが変わったときには、事業所や相談支援専門員と話し合っサービスを見直すことができます。



企業で訓練中

【プログラム事例】

（就労移行支援事業所「自立プラザ希織」（沖縄市））

（全体の流れ）

施設内訓練 評価 施設外授産 評価 職場実習 就職

（1日の流れ）

（水曜日以外）		（水曜日）
8:00	希織に出勤、清掃 移動	9:00 ~ 16:00 基礎訓練、あいさつ、マナー
8:50	作業場到着、着替え、準備	生活場面での対応方法、面接、履歴書作成など
9:00	ミーティング、作業開始 （途中休憩あり）	訓練開始前と終了後のミーティング、昼食あり
12:00	昼食（弁当支給）	
13:00	作業開始 （途中休憩あり）	
15:30	作業終了、かたづけ、清掃、ミーティング、着替え 移動	
16:30	希織に到着、報告、ミーティング 帰宅	

支援者

自立プラザ「希織」
サービス管理責任者
大城 ゆきの さん

あいさつや言葉づかい、基本的なマナーは実際の作業中での訓練はむずかしいので、事業所でケースを想定したり、「ふりかえり」で練習しています。

ひとりひとりの個性や特徴を大切にしたい。皆の就職したい気持ちを応援します。



基礎訓練中

(1) 相談支援事業者とは

地域の障がい者等からの相談に応じ、サービスの利用や社会資源を活用するための支援、権利擁護のために必要な援助、専門機関の紹介などを行っています。(p53 参照)

(2) 個別支援計画とは

就労移行支援やグループホームといった障害福祉サービスを提供する事業所が作成するもので、利用者本人の意向や適性、障がいの特性、その他の事情を踏まえ、適切で効果的なサービスにつなげます。

利用者

伊志嶺 達也 さん

僕は、夢があります。それは、希織を卒業して就職することです。僕は前に就職したことがあります。今度こそ失敗したくはありません。だから希織で一生懸命訓練を頑張っています。

希織の訓練は朝の出勤から始まります。遅刻をしたら職員に怒られます。なぜ、遅刻をしたらいけないのか、皆にめいわくをかけたらいけないからです。

僕は8時30分までに出勤し、施設外授産へ出かけます。企業ではペットボトルの分別作業を行っています。一日中、立ちっぱなしの作業のためけっこうたいへんです。作業とあいさつ、マナーの訓練をしています。

水曜日は作業をお休みして希織で就職勉強会を行っています。勉強会ではあいさつの勉強や履歴書、面接の練習、グループで話し合っ発表する練習など皆で頑張っています。

就職勉強会をやってみて少しだけ変わったと思います。それは職員からあいさつがうまくなったとほめられました。僕はうれしいです。僕は早口であるため、ゆっくり話す練習も頑張っていきたいと思います。

僕は希織に来て一年になります。早く就職が出来るように就労支援員たちとたくさん話し合っていきたいです。そのためには、まいにちの訓練を力いっぱい頑張っていきたいです。希織では、就職に向けてたくさんの方を訓練しています。楽しいことやたいへんなことがあります。就職できるように努力します。

コラム

「一般就労」と「福祉就労」

企業で作業して、企業からお金をもらってれば、雇用されていることになるのでしょうか？

企業での実習や訓練中に手当をもらい、「お給料をもらっている」「雇用されている」と勘違いしていることがあります。

雇用される場合は、労働者として守られるために、雇用保険が適用されるかどうかを確認しなければなりません。

離職した場合でも、1人で社会に放り出されてしまわないように、保護者や支援者は、再就職活動を支援する、福祉サービスにつなぐ、などの対応が必要になります。

一般就労	福祉的就労
雇用契約に基づく雇用	雇用契約に基づかない作業
雇用保険	雇用保険なし
最低賃金法の適用	工賃
事例 ハローワークを通して、 企業に就職	事例 企業内外で授産訓練、作業 所で作業

職業生活の問題（善悪の区別、金銭問題）

中部障害者就業・生活支援センター 石川直子

様々な相談

私がいる障害者就業・生活支援センターには、仕事をしたいという方々が訪ねてきます。

卒業と同時に就職が決まった方、卒業後も仕事探しをしている方、転職を希望している方、退職して現在求職中の方、仕事に悩みを持っている方等、様々な悩みを持って相談に来られます。

私たちの仕事は障がいをもつ方達が社会生活と職業生活を続ける中で、多様な喜び、悩みに対してどう対処すればよいかの相談を受け、それぞれの専門機関と連携させてもらいながら支援に取り組んでいます。

社会生活での問題

働いている方の中には、仕事をする力はあっても社会生活面での問題があり、そのために仕事に支障をきたしたり、仕事が続けられない方もいます。

社会生活面での問題の一つに金銭問題が上げられます。

働いて給料をもらうようになり、これまでお金の使い方に関心がなかった方でも、好きな事にお金を使って、ゲームやギャンブル、お酒、買い物等に楽しみを覚え、給料を一度に使ってしまい歯止めが利かなくなってしまう方もいます。

これまで貯めたお金を脅し取られた方もいます。相手が恐ろしくて、事が大きくなるまで誰にも相談できずにいました。脅し取ることは明らかな犯罪ですが、脅し取られていることを周囲に相談できなかったことも課題としてあげられました。

また、職場で他の方のお金を盗ってしまい、職を失うこともありました。その方は卒業前にもお金でトラブルを起こしたこともあり、家族の財布からお金をとることが習慣化してしまい、遊びたい欲求に負けて家族以外の他の人のお金も盗ってし

まったとのことでした。

生活の基盤が大切

社会で生活する上で、生活の基盤はとても大切です。

働く上では、遅刻をしない、身だしなみを整える、体調管理をする、報告・連絡をする等、あげていくとつきがないうのですが、小さい頃からの規則正しい習慣が身につけている方は、そのことが財産となります。

社会と一緒に働くのには、人に迷惑をかけないことはもちろん、一緒にいて心地よい人であることが必要ではないでしょうか。

障がいのある子どもであろうと、なかろうと、善悪について、悪いことは悪い、と小さい頃からしつけがされていなければ、大人になっても分からないままです。

金銭問題というのは、障がいのある方だけの問題ではありません。

しかしある面、障がいがあるからこそ、小さい頃からの善悪の区別を示すことが大切だと考えられます。小さい頃からの積み重ねが、将来、大人になった時に結果として出てくるのです。

そのことは、家庭と施設と学校が協力して、同じ方向性で一緒に、一人ひとりに合ったやり方で進めていかなければなりません。

今後は、障害をもった子どもに対して、親や、学校も含めての特別なプログラムの育成が必要ではないかと思われま



社会のルールを守る

トラブルの事例

自分がやってしまったある失敗を皆さんに話したいと思います。

僕は学校にいたときからつきあっている彼女がいたのですが、彼女が長電話でお母さんに心配をかけたことがあったので、僕が電話をしてもかわってくれないことが続いて、僕は男友達は何人かいるのですが、やっぱり女の子の友達もほしいとずっと思っていました。

そんなとき、携帯電話で音楽サイトをさがしていると「出会い系サイト」の字がでて興味がおこり、名前と会社の電話番号を入力して登録してしまいました。

すると、その後から会社に料金の請求などで朝から晩までひっきりなしで電話がかかってきて、会社はお客様との連絡がほとんど取れなくなり、電話の対応のために社員は全く仕事ができなくなりました。社長や専務をはじめ、社員全員でお客様へお詫びをしたりして、夜遅くまでその対応におわれてしまいました。会社からは警察にも相談しました。

いろいろしてもらい、電話がなくなるまで2週間かかりました。事務員はノイローゼになりそうならいっていました。

僕をいろいろと支援して下さった就業支援センターのジョブコーチさんも今回はもうクビにしてください、といいました。お兄さんにも迷惑をかけました。

僕はこれまで、やんばるライフで働いていて、やめたと思ったことはありませんでしたが、皆に迷惑をかけたことで本当にやめたくなくなりました。

当然、僕は社長や専務からすごく叱られました。「本当なら即刻解雇だよ！」といわれました。「でも、こうなることが分からなかったのであれば、二度と繰り返さず、迷惑をかけたお兄さんの為にも頑張って仕事をしなさい。」

といわれました。

もう一つの失敗は、消費者金融から20万円を借りてしまった事です。

給料前で通帳に残金がなくて、誰にも相談をせずに借りてしまいました。

最初はバス賃とか必要なことにしようと思っていましたが、洋服、カラオケ、そして飲み食いをして、1, 2週間でそのお金を全部使ってしまいました。

あとで、このお金の請求がきて、返せないので会社にバレてしまい、このことでも迷惑をかけました。毎月そのお金を2万円づつ返していますが来年の7月までかかります。

お金を使うのはあっという間だったのに返すとなるとやっぱりとても大変です。

お金が無いときに誰にも相談しなかったことをとても後悔しています。

社長や専務からは、「どうしても必要なお金なら、給料を前借することも出来たかもしれないだよ。」と教えられました。これからは、生活費や借金の返済のほかに1, 2万円ぐらいは貯金をして、いざという時につかえるようにしたいとおもいました。

僕は専務から、「今回失敗した経験と、これからどうしたいかを後輩達に隠さずしっかりと話してきなさい。そのぐらいのことができなければ、本当に心改めることはできないよ。」といわれ、だから、恥ずかしくても、自分の為にこのことを話しました。今回、僕は幸い周囲に助けられ仕事を続けていますが、もうお兄さんや会社の方たちに心配をかけないように、よく考えて行動しようと思います。

社会にはいろいろな誘惑がありますが、皆さんも僕の話を参考にして、誘惑には乗らないようにしてください。それから、「誰かに相談する」ということはとても大切なことだと思います。

働いたら、どこに住みますか？

共同生活援助（グループホーム）



リビングでくつろぐ

概要

仕事をしたり、地域での自立した生活を希望する障がいのある人たちがアパートや一軒家でいっしょに暮らします。世話人から家事などの日常生活の手伝いを受けることができます。

【対象者】

障害者手帳を持っている 18 歳以上の方

手帳がない場合は、お住まいの市町村で確認

【利用方法】:

お住まいの市町村または近くの相談支援事業者（ 1 ）に相談し、市町村へ障害福祉サービスに係る公費の支給を申請します。その後、市町村の担当者等が、ご本人の生活状況や意向等を調査して公費支給を決定します。また、ご本人または保護者等が、共同生活援助事業所とサービス利用のための契約をします。

家賃や光熱水費等がかかります。

サービスの利用にあたっては料金が発生します。

（各種の軽減措置あり）

【支援体制】:

（共同生活援助事業所）

サービス管理責任者・世話人・（生活支援員）

ひとりひとりの適性や希望等に合った支援を行うため、事業所が個別支援計画（ 2 ）をつくります。また、夜間の緊急時の対応等のため、ほかの障害福祉サービス事業者や関係機関等と連携します。

体の具合や生活環境などが変わったときには、事業所や相談支援専門員と話し合ってサービスを見直すことができます。

グループホームで生活するまでの流れ（モデル例）

相談をする

地域で支援してくれる団体をさがす

施設や家族、行政など関係者と話し合いをす

施設や家族、行政など関係者と話し合う

宿泊体験をする、支援プログラムを受ける・知る

生活に必要なもの

生活費とお金の使い方

ホームヘルパー・ガイドヘルパーなど

日中活動するところ・働くところをさがす

部屋をさがす

健康管理

地域生活へ（グループホーム等での生活へ）



個室の様子

【事例】

共同生活援助事業所「カラーズ」（名護市）

基本的な生活に関する主な支援

食事、洗濯、清掃、整理整頓、移動、安全管理

日中活動に関する主な支援

活動先との連絡調整、社会活動支援

社会生活に関する主な支援

コミュニケーション、金銭管理、情報提供、人間関係、相談、社会資源の利用

保健医療に関する主な支援

健康管理、服薬管理、通院・治療（協力医療機関との連携など）

カラーズでは、養護学校の生徒等を対象に、グループホームへの体験入居を行っています。

（ 2 週間 ）

また、食事や入浴・排せつ等の介護を必要とする人（障害程度区分 2 以上）を対象とした、共同生活介護（ケアホーム）のサービスも提供しています。

世話人

「はばたけホーム」

与儀 加代子 さん

食事をつくったり、金銭管理をしたり、本人とも話し合いながら世話をしています。また、仕事の関係の連絡や体調不良などのときにも対応しています。

ゴミ出しのルールを守ったり、ホーム周辺の清掃をしたり、地域の方々の理解が得られるようがんばっています。

本人たちも部屋のそうじや洗濯、テレビを見たり音楽を聴いたり、自分のペースで過ごせるから施設より楽しいみたいです。



グループホーム外観（民間住宅を活用）

利用者

「グループホームがいい」

平 一成 さん

ぼくは、さくらまつりで、ゆうめいな なごしにすんでいる、はばたけホームの平一成です。

ぼくはグループホームにすんで5ねんになります。まえはせつでくらしていました。ちゅうがくせいいころから、すんでいました。しせつより、ほーむがいいです。しずかだから。じぶんのへやがあるから。いろんなおみせがちかくにあるからです。

ぼくのしょくばは、ファーマーズマーケットです。1がつから、はたらきました。ぼくのしごとは、やさいをふくろにいれたり、シールをはったりします。なれてきたので、まちがうことはあまりないです。

きゅうりょうをもらったら、すぐちょきんして、それから、こづかいを まいしゅう どのように2000 えんもらいます。

それで、ぼくは、すきなおかしやビールをかいます。とけいもかったことがあります。チキンもかいます。よるは、ビールとおかしをたべながら、へやでテレビをみるのが、だいすきです。

ときどきは、みんなといっしょにテレビをみることもあります。いろんなはなしをして、おおきなこえでわらいます。



(1) 相談支援事業者とは

地域の障がい者等からの相談に応じ、サービスの利用や社会資源を活用するための支援、権利擁護のために必要な援助、専門機関の紹介などを行っています。(P.53 参照)

(2) 個別支援計画とは

就労移行支援やグループホームといった障害福祉サービスを提供する事業所が作成するもので、利用者本人の意向や適性、障がいの特性、その他の事情を踏まえ、適切で効果的なサービスにつなげます。

養護学校生徒の訴える姿に衝撃を受けて

有限会社やんばるライフ 専務取締役 比嘉 糸み子

雇用のきっかけ

当社は創業24年目を迎えますが、20周年を前にシンポジウムのお誘いを受け、支援者の皆様で開催された、障害者就労支援シンポジウムに数人の経営者を誘い参加しました。

それまでは、客観的なお手伝いはいくらでも惜しまないけれど、という考え方で、ましてや、雇用という形は当社のようなサービス業ではと、まるで「採用」という視野にいれてはいませんでした。

シンポジストの経営者の話を聞きながら、工夫と努力、そしてなにより、人間力の素晴らしさに、私の考えの至らなさを深く反省させられました。

さらに、養護学校の生徒さんの発表で、「企業の皆さん！僕たちを働かせてください！僕は一生懸命働いてお母さんを楽にしてあげたいです！」と、力強い言葉で訴える姿にとても衝撃を受けました。

ボランティアという形のお手伝いで善しとしていた横柄な考えの自分に気づき、恥ずかしい思いを抱いたのを憶えています。



会社を見直す

翌日からさっそく、よりさまざ

まな社員と共に働ける会社創りについて、模索を始め、我社の仕事をすべて細かく分解してみました。

するとどうでしょう、実にシンプルな積み重ねでひとつの作業が成り立っている部所がいくつか見えてきました、たとえば、毎日入荷する商品の分別収納、チェック、伝票の種分け、チラシの社判いれ、清掃、等、出来ないと思っていたことは、私たちが単に理解していなかっただけのことと気づきました。

創業20年目にして、目から鱗の気づきでした、二人からスタートして多くの人の力と地域に助けられてきた20年を思えば、これからは、もっと真剣に地域との共生の幅を広げ、深める必要がある、社内においてもしかり。

初めての實習受け入れと社内の変化

物事は良くしたもので、意識をすると情報が入り、出会いが起こる、数日後、高等養護学校から實習の依頼を受け、初の機会を得ました。

さっそく、商品の分別収納の作業實習についてもらい（知的、手の指の麻痺、片目弱視のある障害を持つ男子生徒）初めての事なので、社内中の注目を浴びました。

そして、社員に変化が起きました、それは、倉庫の分類表示が誰にでも分かるようになっていないこと、内部で携わっている人間しか分からないようになっていたこと、等、気づきはじめました。そのほか、内発的な気づきや思いやりが表にでて、以外な発見が次々でできました。

他人をサポートする、指導する役割というのは、その社員にとってかなり意識の高まりが起こり、能力の顕在化にも繋がる、良い意味で社員教育のあり方に一石を投じられた思いでした。

それで、卒業と同時にトライアルを経て雇用を決定し現在に至っています。

仕事の効率という側面からみれば、決して良いとはいえない、うまく出来ないけれど直向きに仕事をしようとする姿を買って決定しました。むろん、トライアル期間のジョブコーチさんのサポートがあった事も大きな力になっていますし、私も社員も学べた事が要因だったと思います。

お陰でいろいろな出会いがその後あり、雇用を増やすべく新事業に取り組むきっかけも生まれ、精神の方も含め4名の雇用と3名のアルバイトで計7名で頑張っています。

企業では負えない生活の問題

しかしながら、慣れてくると起こる問題、複数になれば問題も多様化してきます。障がい者にかぎらず、若年ゆえに起こす問題、携帯電話の出会い系、サラ金、異性問題等、次々、登竜門のように起きてきます。

社会的な環境がそういう事を誘発しやすい環境になっていることも否めないのですが、人間力の未熟な人ほど、そして、幼児期、児童期等の生育環境の不遇な人ほど起こしやすい、率がたかいのとは感じています。

就業・生活支援センターのサポートのお陰で大きな問題やストレスに発展することは防げたのですが、一企業で背負えないことがあることも認識しました。

地域で共に生きるために、育つために

早い時期のサポートやキャリア教育のあり方も「生きる力」をつける、ということではとても大切なことと、私も子を持つ親として、(今は皆、社会人として働いていますが)又、地域の一員として、企業人としてしなければいけないことがあるのではと考えさせられます。

では何をするのか、何ができるのか、どうすれば良いのか、何処と、誰と、これからのいろんな分野の連携の必要性を痛切に感じております。

すべての人が地域で安心して働き、暮らすために、共に生きるために、共に育つために、今、何をしなければならぬか皆で考えなければ、考える連携ができれば就労の機会も増え雇用も容易になるかと思えます。

就業者

屋 我 正 也 さん



僕は名護市にある有限会社やんばるライフで働いている高等養護12期卒業生です。

僕が働いているやんばるライフは、ダスキンや、お掃除にかんするいろいろな業務を行っています。

僕は、倉庫で商品の整理をする仕事をしています。たくさんの玄関マットを細かく種類別に分けて、レンタルを担当する人たちが出荷しやすいように準備をします。

僕は3年の時に行った現場実習のあと、採用されましたが、なぜ採用されたのかよく分かりませんが、一度も遅刻をしなかった事はほめられました。

最後の実習を終わって、社長と専務から食事をごちそうもらった時に、「卒業したら、まずはトライアル雇用で訓練をしてみよう。」と伝えられました。

そして、その訓練が終わってから正式に採用されましたが、社長から「指

示されている事だけやるのはただの(作業)でしかない。ほんとうの仕事は相手から言われるまえに自分からやるべき事を見つけてやるものだ、そして、常に努力して前向きに仕事をしなさい。」と教えられたことを覚えています。

僕の勤務時間は朝9時から夕方6時までです。

これまで仕事をしていて良かったと思う時は、やっぱり給料の明細をもらった時です。また、職場に同僚ができたこともうれしかったです。これから増えると聞いているので、また楽しくなってくると思います。

現在、給料は9万円から10万円もらっています。使い道は、僕は兄と生活しているので、生活費を3万円、バス賃や昼ごはんの弁当代で2万円、あとは小遣いにしています。

現場実習と、就職をしていて一番違うと感じることは、仕事のきつさもそうですが、実習の時では許されていたことも、仕事では許されないことがあるということです。

特に言葉遣いやあいさつ、返事、話を聞くときに相手の顔をきちんと見ることなど、できていないときは、厳しく叱られます。

それから、僕は働いて1年はとくに過ぎましたが、まだ職場の人に自分から積極的に話しかけることができません。そのこともよく注意されます。

就業者

前 田 直 哉 さん



私が、今の仕事に決まるまでは、防水工を半年間していました。少々きつかったです。その前までは、社会復帰施設でパン工場の訓練を受け

ていました。

しせつに居たのは一年間ですが、やはり自立をしたいという気持ちが大きく、その施設にいるときから、外に仕事というか、アルバイトとかを探しに、よく出かけていました。たとえば、農業とか、農業では、ぶどう畑のぶどうの木の枝の剪定とかなどやっていました。小遣いもほしいし、自動車も欲しいと思っていました。

施設をでて、一軒屋を借りることにしました。生活は落ち着いています。食事は自炊をしています。

今の仕事は清掃が主です。会社はやんばるライフに勤めています。最初は、ハローワークの方の勧めで、職場適応

訓練で半年間頑張りました。

今現在は正社員にさせてもらっています。正社員になって半年になり年休ももらえます。

仕事をしていると生活も充実しています。私の趣味は音楽を聴くこと、あとは、琉球三味線を少しやっています。

宗教も少しやっていて、キリストを信仰といっちはおかげさかもありませんが、それを心の拠り所になっています。将来の夢や希望などは、いままで、貧しい生活が続いたので、一生懸命仕事をがんばり、金持ちになりたいと思って努力していこうと思います。

可能性を求めて

有限会社沖縄イリョーサービス 小 浜 源 政

「職業リハビリテーション」という考え方との出会い

少子高齢化社会が急速に進む山原の過疎地域で小規模事業を営むにも「人材」の確保が極めて難しい昨今です。

特に3Kと言われる部分の多いクリーニング業界においても高齢者や障がい者に依頼する業務が多いです。

昭和50年に当時本部町で開催された沖縄国際海洋博を境に産業構造、就労雇用形態が第一次産業（農業漁業）から第三次産業（サービス業/ホテル、医療、福祉施設）がかなり増えました。

今では、観光と健康な町を唱えるリーダーが増えました。当社はこのような背景下で近くの病院長の医療の分野の「職業リハビリテーション」についての講話にうたれ、平成2年4月に精神障害、知的障害、下肢障害の3名の障がい者に巡り会いました。

これまで24名を雇用

平成2年4月、創設以来、障が



い者数24名を雇用しましたが、定着しているのは15名で、36名の従業員の中で頑張っています。ほとんどの方が養護学校、医療機関、授産施設からの紹介です。

関わっている24名の中からいくつかの事例を紹介したいと思います。

65歳を超えても勤めた事例

Aさん（精神障害）

平成2年4月会社設立当時、精神科病院のケースワーカーと共に面接に来られる。

精神障害のある人の雇用に対する知識と経験なく不安であったが、病院のスタッフの全面的な協力があり、職場適応訓練（6ヶ月）終了後、採用に至る。雇用後、生活保護受給を返上した。

雇用当時は53歳。定年後（65歳）も働いていたが、平成18年に腰痛を訴えるようになり、退職（15ヶ月の勤務）。

家庭での手伝い経験が就職の決め手となった事例

Bさん（重度知的障害、言語障害、ダウン症）

学校の進路の先生と母親と一緒に面接に来られる。印象としては、「就労困難では」と感じた。

母親に「家庭での役割は」と質問したところ、「学校から帰ると洗濯物を取り入れ、家族5名の各自のタンスに整理させている」との回答があった。

クリーニング業は、彼の家庭での役割の延長線上にあるため「就労は困難ではない」と判断。

職域開発援助「現ジョブコーチ事業」（4ヶ月）、職場適応訓練（1ヶ月）を経て、雇用。現在就労11年目。

コミュニケーションの失敗事例

Cさん（聴覚障害、言語障害）

沖縄ろう学校卒業後、本土で就職経験あり。

職業安定所の紹介で、職場適応訓練（1年間）を経て雇用。配達業務に従事する。勤務態度は、真面目で顧客からは信頼（期待）されていた。

体調不良を訴え「休職」していたが、3週間後、他府県にいたことが判明。（見知らぬ人から家族を通して連絡、無事と知り安心した）

本人の悩み 理解不足 コミュニケーションの不足であったと認識。その反省を新聞に投書し、読者からの激励や指導をいただいた。

人間関係のトラブル事例

Dさん（身体障害）

作業所からの紹介で、職場適応訓練（1年）後、採用（雇用）。就労中、特定の女性職員に対する暴言やいじめの行為があり、女性職員から不安である旨の訴えがあった。

そのことに対し、配置換えで対応するが、同様な行為を繰り返す。その為、話し合いをするが、自ら退職を申し出た。

障害者就業・生活支援センターに依頼し、現在、反省し復職をして頑張っている。

雇用してわかったこと

連携（ネットワーク）が必要

特別支援学校、医療機関、就労支援機関との連携。

学校の進路担当、施設、医療機関とケースワーカー。

就労支援機関（障害者就業・

生活支援センター）のワーカーとの連携は大事。

障害の特性に合わせた仕事を作ること。

職場外の生活は、現場に影響を与える。

最後に

先日、障害者芸術文化祭で、障がいのある職員が琉球舞踊を披露しました。職員の舞踊はすばらしく、私も感激しました。練習も大変だったと思いますし、本人達にとっても達成感は大きかったのではないのでしょうか。

このように、舞踊でも作品制作でも何でも、熱中して何かをできる人は、必ず働けると思います。障がいがあるからと言ってあきらめることはありません。



熱中できるものがある

就業者

島袋智美さん



私は、沖縄イリョーサービスに働いて十年目になります。養護学校から実習して、卒業してからグループホームに入り、働きました。今では、仕事にも慣れてきました。

楽しいことは、アイロンがけとオシポリ畳みです。一番うれしいことは、給料がもらえることです。疲れることは、シーツを流す時に肩が痛くなります。生理痛のときは、仕事を休みたいと思ったりします。嫌なことは、工場長に注意されることで、「シーツ早く流せ!」と言われることです。

でも休んだら給料が少なくなるから、がんばっています。

また、沖縄養護高等学校から実習生が来たときは、教えたりします。

台風の際は、停電しない限り休みではありませんでしたが、バスが止まる時には、休みになりました。うれしいです。

イリョーサービスの社長がいろんな仕事を教えてくれました。社長より奥さんが怖いです。いろんな相談は、事務所の諸喜田さんと新垣さんに話します。

今、私は付き合っている彼氏がいます。私の母親と彼氏の両親が、結婚に賛成してくれました。職場の社長も応援してくださり、養護学校の先生も喜んでくれています。

先生と相談したり、社長に相談したりして結婚します。来年の三月までには、結婚したいです。

彼氏の両親と私の母親とおばさんが、イリョーサービスで社長と養護学校の先生、彼氏と私で話し合いをしました。まずは、同棲してから結婚して、ウェディングドレスを着るのが夢です。

仕事と結婚ふたつともこれからがんばっていきます。今は、とっても幸せです。

彼らの成長に驚かされることがたくさんある

株式会社沖縄教育出版 大城 美佳

出会い

2001年に入社し早6年になります。その時に高等養護学校からも障がいをもった3人の男の子と一緒に入社しました。障がいのある方と接するのも初めてだった私に、ましてや一緒に働くななんて想像もつかない出来事に、不安やとまどいが大きいのしかかってきました。

どういう風に接していいのか、何を話していいのか、どこまで理解できるのか、全くわかりませんでした。でも、その不安はすぐに消えました。彼らに接してみて初めて、彼らなりに一生懸命考えていることがわかったからです。

例えば、質問したことに対して答えが出てくるのに時間がかかることもありましたが、分からないことは分からないとはっきり答えるし、質問と違った答えが返ってきたりします。でもいつも真っ直ぐで正直な彼らを前にすると自分自身も素直になれるし、色々教えてあげたいという気持ちにもなるのです。



健常者と同じようにチャンスを与えること

しかし、障がいをもっている方に対して理解が不十分な社会では、

周りの目が気になったり、どうしても健常者と同じように見ることができなかつたりするかもしれません。

でもそれは、障がいをもった本人たちよりも家族や周りの方々が気にしているだけのこともありません。なぜなら、彼らを見ているとちゃんと自分の意見はもっているし、最初はできないことがあっても練習を重ねることによってきちんとできるようになるし、なによりも成長したいという意志が組み取れるからです。

健常者と同じようにチャンスを与えることによってどんなに障がいがあっても同じように可能性があるのです。その手助けができるのが、家族であったり、学校であったり、職場であることがわかりました。たくさんの人と触れ合うことによって日々、成長していく彼らを見てわかったのです。

彼らの成長に驚かされる

実際に彼らの成長に驚かされることがたくさんあります。

例えば、人前でしゃべることが出来なかったのに、今では大勢の前に出て自分の意見を言うことができたり、仕事が終わって自分から進んでパソコン練習をした結果、ブラインドタッチまでできるようになったり、親元を離れて他県に半年間研修へ行ったり、最近では、社員旅行で初の海外旅行に台湾にも行ってきたのです。

入社してから一緒にいる私ですが、彼らがここまでできるようになる

なんて思ってもみませんでした。

今では、急なお願いがあるときや、職場の雰囲気や和ますのに彼らを頼ってしまう自分がいます。



共に学び、共に働き、共に成長していく喜び

ここまで彼らが成長するのには家族や職場の存在があったからだと思います。

家族や職場一人ひとりの協力や理解があってこそ、私たちは一緒に働けるのです。

これからも、もっともっと彼らにチャンスを与え、共に学び、共に働き、共に成長していく喜びを実感していきたいと思っています。





就業者

上原 信 弥 さん (中央)

最初は、朝の掃除がどこを掃除するのか分からないかったけど一期生の先輩が教えてくれました。入社しての最初の、掃除は掃除機をしました。次に皆で8時から朝の勉強会をして本読みをしました。順番ずつ読んで言って僕と饒平名さんと富山さんは、分からない所は、先輩がノートに書いてくれたものを3人は、同じように見ながら書きました。勉強会は、8時から、8時45分までして9時からパートさんも含まれて一緒に朝礼をしました。

朝礼は、1時間もしたので体が疲れました。朝礼で皆の前で発表して体と足が震えて言葉が出てこなくて緊張しました。

朝礼が終わってから、業務の皆さんと一緒に業務に行って仕事しに行って乾燥剤をB5サイズの袋に3個入れたり、黒酢とフライギンゴを小箱に入れて小箱に入っているのを大きい箱に入れました。黒酢は、大きい箱に、5個ずつ入れてフライギンゴは、3個と分量分を入れました。

2003年から、三期生が来て、今後は、教えるパターンになりました。三期生は、崎山さんと玉城さんと今村さんでした。特に玉城さんは、一緒に業務の仕事をして、玉城さんは、リーダでした。玉城さんが来たので、業務で、やっていたウコン詰めは、ウコンで作っている山田工場で、ウコン詰めをしました。朝から、詰めて17時までしました。

2004年から、4期生が入社して来て、2005年から、5期生が入社して来て、2006年は、6期生が入社して来て2007年から、7期生が入社して来てますます教える番になりました。

2007年の2月22日に宮崎にある神々ふるざと湯で、半年ぐらい研修をして、最初は、緊張してあんまりコミュニケーションができなかったけど、少しずつ慣れて来て、コミュニケーションもできて、仕事も、できるようになりました。

仕事の内容は、沖縄教育出版と違って神々では、お客さんとコミュニケーションをとったり、厨房では、お皿洗いをしたり、お皿に盛り付けをしたりお米洗いをしたり、床の掃除をしたりしました。神々の出勤は、A勤が、9時から6時で、B勤が13時から22時までして、C勤が11時30分から、20時30分でした。自分は、ほとんどB勤が、C勤でした。たまに、A勤出勤がありました。

7月から、神々の皆が辞める中自分の出勤が、毎日22時まで仕事でした。饒平名さんは、6月20日に沖縄に帰ったけど、自分は、8月まで、働いて、9月にやっと沖縄に帰る事になりました。川畑さんが迎えに来てくれて一緒に帰りました。沖縄に戻って、9月から、化粧品で働いて最初は緊張したけど、今は、皆の出勤のポータルをしたりしています。

沖縄教育出版に入社できて良かったです。

就業者

上原 孝 美 さん

小さい時から高校までは沖縄で家族と一緒に住んでいました。絵を描くのが好きだった私は、県外にあった聴覚・視覚に障害のある人が通う筑波技術短期大学（現在は筑波技術大学）のデザイン科に入学。初めて親元を離れて暮らす寮生活でしたが、視野が広がり色々大切な事を学び、友達も出来ました。

卒業する前の就職活動で学校から関東周辺をすすめてくれましたが、私は沖縄を選びました。沖縄の仕事

探しは困難で、特にデザインの仕事はまったく見つかりませんでした。

私は、沖縄県那覇市にある株式会社沖縄教育出版で働いています。

そこは本などを出版するのではなく、健康食品・自然派化粧品の企画、通信販売を行っているユニークな会社です。平成19年12月現在、約150人ほどの従業員が働き、その中に障がいを持った人もいますが皆それを気にせず、わきあいあいと楽しく働いているのが印象的です。

その中の一人である私は天性高度難聴で補聴器が無いと全く聞こえないという障がいを持っていますが、色々な

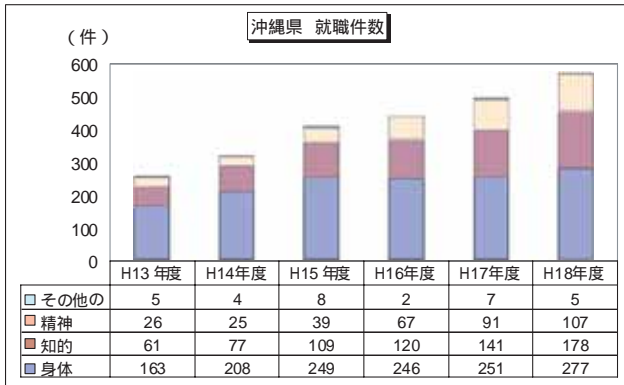
縁で会社のデザイン部に所属して頑張っています。

それでも親や周りの人々の協力や情報があつたからこそ、今の会社に就職が出来ました。感謝の気持ちでいっぱいです。

他にも色々困難があつて、これからのあるかもしれない。それでも進もうという気持ちや周囲とのコミュニケーション、感謝の気持ちを忘れずに自らも積極的に動いていけばいつの間にか越えられると思います。

沖縄県の雇用状況

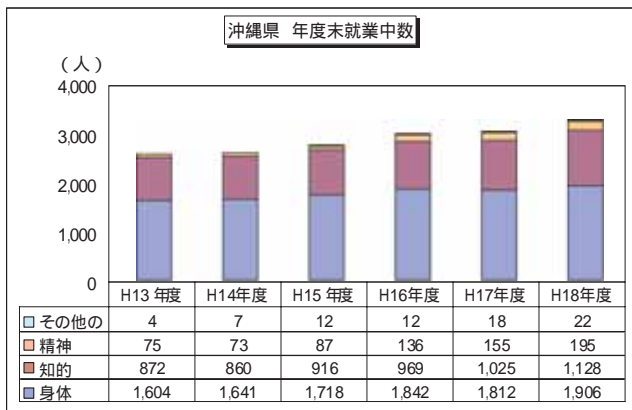
雇用状況グラフ



資料出所：沖縄労働局

就職件数

沖縄県の障がい者の就職件数は年々増加しています。平成17年度の就職件数は490件、平成18年度は567件となっています。



資料出所：沖縄労働局

就業中人数

ところが、ハローワークに登録されている人のうち、就業中となっている障がい者の人数は、平成18年度末は3,251人。平成17年度末は3,010人。平成17年度末から18年度末の1年間に、増加している就業中の人数は、241人です。

上のグラフで見た18年度の就職件数は567件でした。単純に、1年に567人が就職したと仮定すると、一方で1年に326人が離職したことになります。同様に計算していくと、

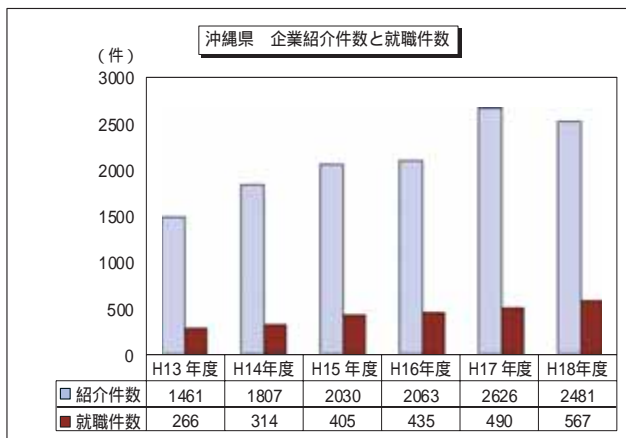
	就職件数	就業中増加人数
平成17年度	490	51
平成16年度	435	226
平成15年度	405	152
平成14年度	314	26

となっています。

企業紹介件数と就職件数

次のグラフは、ハローワークの企業紹介（面接等）の件数と、就職が成立した件数です。

企業紹介件数と就職成立件数の差は大きく、依然として障がい者と企業のマッチングは難しいことがわかります。



資料出所：沖縄労働局

平成 19 年度 市町村相談支援事業所一覧

障がいのある方が地域の中で安心して生活できるよう、相談支援専門員が相談や支援を行います。

北部地域		
名護市・国頭村・大宜味村・東村・今帰仁村・本部町・伊江村・伊平屋村・伊是名村		
北部障害者生活支援センターハーモニー（身体）	名護市大中 2-2-4	0980-53-1116
名護療育園「地域相談支援事業うむさばる」（知的）	名護市字宇茂佐 940	090-3794-7469
地域生活支援センターウェーブ（精神）	名護市大中 2-2-4	0980-53-1173
中部地域		
宜野湾市		
沖縄県自立生活センターイルカ（身体）	宜野湾市伊佐 4-4-1	098-890-4890
グリーンホーム（知的）	中城村字新垣 1583	098-895-3999
相談支援事業所おきなわ（精神）	沖縄市高原 7-35-1（福祉文化プラザ内）	098-930-1703
沖縄市		
地域活動支援センターていーだ（知的）	沖縄市字古謝 1031-1	098-929-4733
相談支援事業所おきなわ（精神）	沖縄市高原 7-35-1（福祉文化プラザ内）	098-930-1703
うるま市		
うるま市障害者支援センターあやはし苑（3 障害）	うるま市与那城照間 702	098-978-1280
相談支援事業所なごみ（3 障害）	うるま市字白浜 2-5-9	098-964-5045
地域生活支援センターあいあい（3 障害）	うるま市みどり町 1-1-9	098-979-0555
恩納村・宜野座村・金武町・読谷村・嘉手納町・北谷町・北中城村・中城村		
相談支援事業所なごみ（知的）	うるま市字白浜 2-5-9	098-964-5045
グリーンホーム（知的）	中城村字新垣 1583	098-895-3999
うるま市地域生活支援センターあいあい（精神）	うるま市みどり町 1-1-9	098-979-0555
相談支援事業所おきなわ（精神）	沖縄市高原 7-35-1（福祉文化プラザ内）	098-930-1703
南部地域		
那覇市		
相談支援事業所なんくる（3 障害）	那覇市古波蔵4-7-7 古波蔵ふれあい館 2F）	098-836-6970
那覇市障がい者生活支援センターゆいゆい（3 障害）	那覇市金城3-5-4 那覇市総合福祉センター内	098-891-8454
地域生活支援センター Enjoy（3 障害）	浦添市前田 1004-9	098-877-0552
さぼーとせんたーい（あい）（3 障害）	那覇市真地 224-1	098-889-5955
浦添市		
ピアサポートセンターほると（身体）	浦添市仲間 1-1-2	098-879-7565
地域生活支援センター Enjoy（知的）	浦添市前田 1004-9	098-877-0552
生活支援センターあおぞら（精神）	浦添市大平 1-23-13	098-879-6644
糸満市		
糸満市生活支援センター陽だまり（身体）	糸満市字真栄里 857	098-840-8468
みなみの里相談支援センター（知的）	糸満市字摩文仁 207	098-997-3900
糸満市地域生活支援センターひかり（精神）	糸満市字真栄里 870	098-994-5100
豊見城市		
地域活動支援センターさくら（3 障害）	豊見城市字平良155-1 大城アパート101	098-840-5904
みなみの里相談支援センター（知的）	糸満市字摩文仁 207	098-997-3900
相談支援事業所 ひまわり（知的）	豊見城市字渡橋名 92-1	098-856-6639
南城市		
みなみの里相談支援センター（知的）	糸満市字摩文仁 207	098-997-3900
鶺鴒の叢あしすと（知的）	南城市大里字大城 1388	098-946-7177
相談支援事業所野の花（3 障害）	南城市大里字仲間 928（2 階）	098-946-0898
西原町		
ピアサポートセンターほると（身体）	浦添市仲間 1-1-2	098-879-7565
地域生活支援センター Enjoy（知的）	浦添市前田 1004-9	098-877-0552
健康衛生課（精神）	西原町字嘉手苧 112	098-945-5013
与那原町		
地域生活支援センター Enjoy（身体、知的）	浦添市前田 1004-9	098-877-0552
相談支援事業所てるしの（精神）	南風原町宮平 206-1	098-888-5658
南風原町		
保健福祉課（3 障害）	南風原町字兼城 686	098-889-4416
渡嘉敷村		
民生課福祉係（3 障害）	渡嘉敷村字渡嘉敷 183	098-987-2322
座間味村		
座間味村地域包括支援センター（3 障害）	座間味村座間味 109	098-896-4045
粟国村		
民生課（身体、知的）	粟国村字東 367	098-988-2017
渡名喜村		
民生課（3 障害）	渡名喜村 1917-3	098-989-2317

南大東村 南大東村地域包括支援センタ - (3 障害)	南大東村字南 144-1	0980-22-2116
北大東村 住民課 (3 障害)	北大東村字中野 218	0980-23-4055
久米島町 福祉課 (仲里庁舎) (3 障害)	久米島町字比嘉 2870	098-985-7124
八重瀬町 みなみの里相談支援センター (知的) 相談支援事業所ひかり (精神)	糸満市字摩文仁 207 糸満市字真栄里 870	098-997-3900 098-994-5100
宮古地域 宮古島市 相談支援事業所ひらら (3 障害) 地域生活支援センターさぼーと (3 障害)	宮古島市平良字西里 1472-160 宮古島市平良字西仲宗根 1327-1	0980-72-6668 0980-73-5305
多良間村 民生課 (3 障害)	多良間村字仲筋 99-2	0980-79-2623
八重山地域 石垣市 相談支援事業所まーる (3 障害) 指定相談支援事業所むゆる館 (3 障害)	石垣市美崎町 1-9 石垣市字大川 203 (むゆる館)	0980-84-1341 0980-83-9226
竹富町 指定相談支援事業所むゆる館 (3 障害) 福祉保健課 (3 障害)	石垣市字大川 203 (むゆる館) 石垣市美崎町 11	0980-83-9226 0980-82-6191
与那国町 指定相談支援事業所むゆる館 (3 障害) 長寿福祉課 (3 障害)	石垣市字大川 203 (むゆる館) 与那国町字与那国 129	0980-83-9226 0980-87-2241

障がい児者当事者団体等ホームページ

全国肢体不自由児・者父母の会連合会	http://www.zenshiren.or.jp/zenshiren/index.html
日本肢体不自由児協会	http://www.normanet.ne.jp/jsdc/
全国心身障害児福祉財団 療育WEB	http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/
日本障害者リハビリテーション協会	http://www.jsrpd.jp/
重症心身障害児療育相談ネットワーク	http://www.normanet.ne.jp/%7Eww100092/network/index.htm
全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会	http://www.normanet.ne.jp/%7Ekyodai/
全日本手をつなぐ育成会	http://www.ikuseikai-japan.jp/
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	http://www.zennancho.or.jp/
全日本ろうあ連盟	http://www.jfd.or.jp/
日本筋ジストロフィー協会 (会員チャットあり)	http://www.jmda.or.jp/
日本発達障害ネットワーク (掲示板あり)	http://www.jddnet.jp/index.php
日本自閉症協会 (掲示板あり)	http://www.autism.or.jp/
日本身体障害者団体連合会 (職業自立相談あり)	http://www.nissinren.or.jp/
日本発達障害福祉連盟	http://www.gtid.net/jp/index.html
日本てんかん協会	http://www.jea-net.jp/index.html
日本盲人会連合会	http://www.normanet.ne.jp/%7Enichimo/
日本盲人社会福祉施設協議会	http://www.ncawb.org/
アイメイト協会	http://www.eyemate.org/
全国脊髄損傷者連合会 (掲示板あり)	http://www.zensekiren.jp/
日本ダウン症ネットワーク	http://jdsn.ac.affrc.go.jp/dowj1.html
こども応援ネットワーク (相談あり)	http://www.hello.to/andante/
プロップステーション(重度障害者の在宅就業支援など)	http://www.prop.or.jp/

その他情報 ホームページ

国立特別支援教育総合研究所	http://www.nise.go.jp/portal/index.html
全国車いす宿泊ガイド	http://www.raqoo.jp/sys/portal/
アミューズメントバリアフリー協会	http://www.aba21.net/
ユニバーサルネットコミュニティゆうゆうゆう	http://www.u-x3.jp/
ユニバーサルデザイントイレマップ	http://www.checkatoilet.com/
高齢・障害者雇用支援機構 障害者雇用事例集	http://www.ref.jeed.or.jp/Search
高齢・障害者雇用支援機構 在宅就業支援	http://www.challenge.jeed.or.jp/

将来の社会参加や就労へ向けて！

このガイドブックは、保護者や身近な支援者が、障がい児を応援するための一助となるように、との目的で、労働・福祉・教育の各分野の関係者の協力により作成されました。

作成に当たっては、執筆者をはじめ、「学童期からの就労支援基盤強化研究会」の委員の皆様の多大なるご協力をいただきました。

このガイドブックを通じて、少しでも保護者や支援者が将来の希望を持つことができるように願っています。

一緒に、障がい児の「将来働きたい」を応援できれば幸いです。

学童期からの就労支援基盤強化研究会委員

石川直子 中部障害者就業・生活支援センター就労支援ワーカー
大城悦子 沖縄県発達障害者支援センター療育担当
嘉数進 沖縄県特別支援学校進路指導研究会事務局
崎濱秀政 北部障害者就業・生活支援センター所長（座長）
富永幸男 南部障害者就業・生活支援センター生活支援ワーカー
仲地宗善 知的障害児施設沖縄中央育成園支援課長
比嘉糸み子 沖縄県中小企業家同友会 副会頭
平安名栄樹 沖縄高等養護学校進路指導担当教諭
宮城美幸 沖縄県特別支援学校PTA協議会

（五十音順）

障がい児の保護者と支援者のための就労支援ガイド

～障がい児の「将来働きたい」を応援する～

発行 平成20年2月

編集・発行 沖縄県

本ガイドは、平成19年度厚生労働省障害者保健福祉推進事業（障害者自立支援調査研究プロジェクト）の補助を受けて発行されました。

障がい児の保護者と支援者のための

就労支援ガイド

R100

～障がい児の「将来働きたい」を応援する～